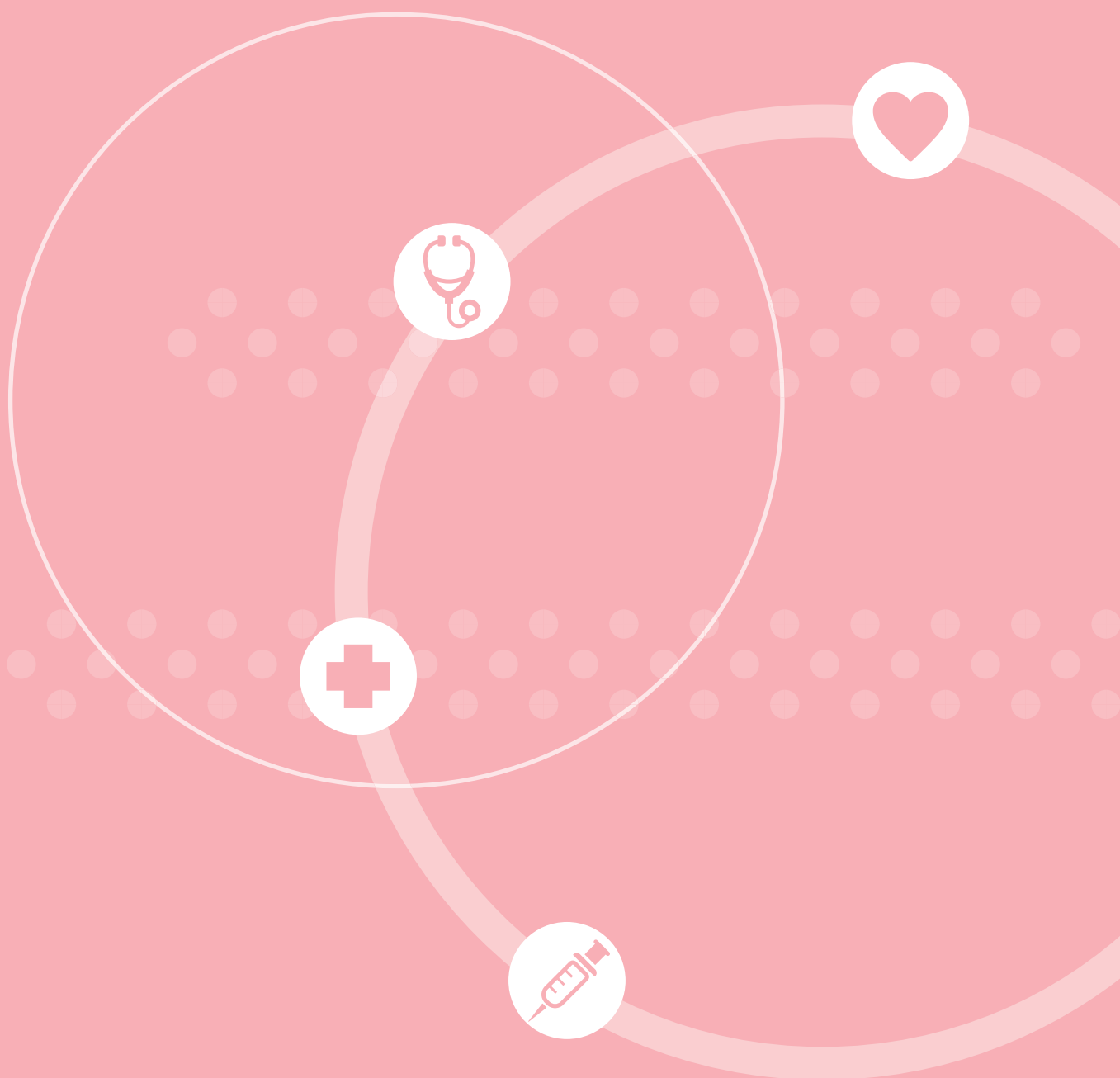


宮城大学
履修ガイド 2022

看護学群

看護学類



この履修ガイドは卒業まで使用するものです。

はじめに

この「履修ガイド」には、宮城大学に入学された皆さんにとって、大学での4年間の学びが充実したものとなるよう学修計画を立て、実現していくために必要となる基本的な情報がまとめられています。

大学では、高校までとは違い、入学した当初から自分自身で考え、行動することが求められます。高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められており、自分自身で考えて授業科目を選択することはあまりなかったかもしれませんが、大学では、多くの授業科目の中から、自分の勉強したい科目を調べ、登録するといった作業を自分の判断で責任を持って行わなければなりません。この一連の履修に関係する要件や各種手続きのほか、入学から卒業までの基本的な流れ、基盤教育・専門教育課程の特徴等を「履修ガイド」で説明しています。

また、宮城大学では、学群・学類・コースごとに「進級・卒業に必要な単位数」を定めています。この条件を満たし、順調に進級・卒業できるよう、この「履修ガイド」を熟読した上で、各授業科目の内容が記載された「シラバス」を活用して、卒業後の進路も見据え、納得のいく学修計画を立ててください。

「履修ガイド」は、入学時だけではなく、毎年の履修登録のとき、学修計画や進路で迷ったり、分からないことに会ったとき、読み返してみることで、解決の方法や糸口が見つかるような「便利帳」の役割も果たしていますので、卒業まで大切に手元に置いて活用してください。

目次

I 宮城大学カリキュラムの全体像	06	III 履修登録	18
① 宮城大学の教育目標	06	① 履修登録とは	18
② 宮城大学の教育基本方針	06	② 履修登録の手順	18
③ 学群・学類について	06	(1) 事前作業	18
		(2) 履修登録	18
		(3) 履修登録修正	18
		(4) 時間割の保存	19
		(5) 履修登録取消期間	19
		(6) 履修登録科目の確定	19
II 総論	09	③ 履修登録上の留意点	19
① 入学から卒業までの基本的な流れ	09	(1) 履修登録可能な単位数の上限	19
② 学群とキャンパスについて	09	(2) 単位修得済み科目の履修登録の禁止	19
③ 学年及び休業日と、学期、時間割について	09	(3) 集中講義科目の日程確認	19
(1) 学年、学期及び休業日	09	(4) その他	19
(2) 時間割	09	④ 科目ナンバリング	19
④ 学籍と在学期間について	10	(1) 科目ナンバリングとは	19
(1) 学籍の異動	10	(2) 付番方法	19
(2) 修業年限及び休学期間の限度、在学年限	10		
⑤ 単位について	11	IV 全学共通科目 ほか	21
(1) 単位の計算基準	11	① 地域連携実践教育プログラムについて	21
(2) 卒業要件単位数	11	(1) 地域連携実践教育プログラムとは	21
(3) 単位認定について	11	(2) 単位	21
⑥ 履修登録について	12	(3) プログラムの考え方および特色	22
⑦ 授業について	12	(4) 履修方法および履修手続等	22
(1) 授業科目	12	② 他学群・他学類履修、他大学等履修、	
(2) シラバス(授業計画書)	12	入学前既修得単位の単位認定について	24
(3) 授業への欠席及び遅刻	12	(1) 他学群または他学類の履修について	24
(4) 休講	12	(2) 単位認定に係る申請について	24
(5) 補講	12	(3) 単位認定された授業科目の本学開講科目との振替について	24
(6) 授業評価アンケートシステム nigala(ニガーラ)M1について	12	(4) 振替できない科目の卒業要件単位数への算入について	25
⑧ 成績の評価方法について	13	(5) 単位認定を受けた授業科目の成績表記について	25
(1) 試験	13	③ 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度	26
(2) レポート・制作物等の提出方法	13	(1) 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度とは	26
(3) 追試験	13	(2) 単位互換制度の申請方法	26
(4) 再試験	13	④ 学外研修・グローバルインターンシップ	27
(5) 不正行為について	14	(1) 学外研修・グローバルインターンシップとは	27
(6) グローバルコミュニケーション科目の受験資格の認定について	14	(2) 科目の履修方法	27
(7) 成績発表について	14		
(8) GPA制度	14	V 基盤教育	31
(9) 学修状況チェックシステム alagin(アラジン)M1について	14	① フレッシュマンコアとは	32
⑨ 進級について	15	② 基盤教育における9つの科目分野	34
⑩ 学類の決定・履修コースの選択について	15	(1) 導入科目	34
(1) 学類の決定	15	(2) 情報統計	34
(2) 履修コースの選択	15	(3) 芸術・人文学	34
⑪ 転学群・転学類及びコース変更について	15	(4) 人間科学	34
(1) 転学群・転学類について	15	(5) 社会科学	34
(2) コース変更について	15	(6) グローバルコミュニケーション	34
⑫ 卒業認定・学位授与について	16	(7) 自然科学	34
⑬ 学修支援について	16	(8) 実践基礎	34
(1) 教員に相談したいとき	16	(9) 全学共通科目	34
(2) 職員に相談したいとき	16	③ 留学生対象科目	35
(3) 学生相談室、保健室について	16	④ 教育課程の一覧	35
(4) 合理的配慮について	16		
⑭ その他	17		
(1) 大学からの連絡	17		
(2) 気象状況や自然災害等による休講・試験の延期	17		
(3) 学生保険について	17		
(4) 経済支援について	17		

VI 看護学群	37
① 看護学群看護学類について	37
(1) 看護学群での学びとキャリア	37
(2) 看護学類の教育目標	38
(3) 看護学類のカリキュラムマップ	39
(4) 看護学類の科目関連図	40
② 看護学類の科目配当表	44
(1) 看護師教育過程科目配当表	44
(2) 保健師教育過程科目配当表	46
(3) 養護教諭教育過程科目配当表	48
③ 卒業に必要な単位及び卒業要件	50
④ 教育過程の特色	51
(1) 基盤教育科目	51
(2) 専門教育科目	51
⑤ 看護師教育過程	51
⑥ 保健師教育過程	51
⑦ 養護教諭教育過程	51
⑧ 災害看護プログラム	52
⑨ 国際看護プログラム	52
⑩ 履修での留意事項	53
⑪ 履修モデル	54

建学の精神

快い生活環境（アメニティ）に身を置き、心温まる人間関係（ホスピタリティ）に囲まれていることは成熟社会に生きる万人の願いであり、このような地域社会を実現させるために「ホスピタリティとアメニティの究明と実現」を目指す。

大学の理念

高度な実学に基づき、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材を育成するとともに、学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する。

豊かな人間性	先人たちの考えや相手の価値観を尊重し、知性と感性を涵養することで自らの人間性を磨いていく。
高度な専門性	関連するあらゆる学問や技術に関心を寄せ、自らの専門性を高め、時々刻々と変化する社会にしなやかに、かつ、柔軟に対応できる力を身につける。
確かな実践力	地域に根ざし、グローバルな視点で自ら主体的に考え、強い意思を持って実践していく。

大学の目的

本学は、地域社会及び国内外の大学・研究機関等との自由かつ緊密な交流及び連携のもとに、看護、事業構想、食産業及びそれらの基盤となる学問に関する教育研究を行うことにより、学術文化の振興に資するとともに、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を備えた人材を育成し、もって地域の産業及び社会の発展に寄与することを目的とする。

各学群の教育研究上の目的

看護学群	生命の尊厳を基盤とする豊かな人間力を備えて、科学的思考力とマネジメント能力をもち、ヒューマンケアを中核とした創造的な看護を展開し、地域社会及び多分野・異文化の人々と協働して学際的及び国際的に活躍できる人材を育成すること。
事業構想学群	現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的にとらえ、その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに、豊かな人間性を基盤として地域資源の活用や新たな価値創造を志向し、産業、行政及び社会の各分野で先導的役割を担うことができる人材を育成すること。
食産業学群	生物資源の開発及び食材生産から食品製造・流通・消費に至るまでのフードシステムについて幅広い科学的知識と技術を持ち、豊かな人間性に基づいて食産業全体及び地域社会を理解し、東北地域から世界まであらゆるレベルで食の未来を開拓できる意欲と能力を有する人材を育成すること。

I. 宮城大学カリキュラムの全体像

1 宮城大学の教育目標

宮城大学の理念、目的を踏まえ、主体性を持って協働的に行動し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成を教育目標として定めています。

2 宮城大学の教育基本方針（ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー）

(1) ディプロマ・ポリシーとは

宮城大学の教育目標に基づき、どのような力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定めた基本的な方針を「ディプロマ・ポリシー」といいます。これは、学生の学修成果の目標ともなるものです。

ディプロマ・ポリシー
大学の理念の下に、各学群の教育目標(教育研究上の目的)を定め、それを構成する要素として以下の5点を掲げる。 ① 豊かな教養と自らの専門分野を体系的に理解する知識・技術 ② 課題を発見し問題解決に至る論理的な思考・判断力 ③ 自らの考えを適切に構成し他者に伝達する表現力 ④ 自ら学び続ける意欲と高い公共性や倫理観のもとで行動する実践力 ⑤ 他者とともに共通の目標に向かい行動する協働性 宮城大学では、これらに基づき各学群で求められる専門能力を修得した学生に卒業を認め、学位を授与する。

(2) カリキュラム・ポリシーとは

「ディプロマ・ポリシー」の達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定めた基本的な方針を「カリキュラム・ポリシー」といいます。

カリキュラム・ポリシー	
各学群で定める教育目標を実現するため、ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの構成要素に基づき、以下の方針によりカリキュラムを体系的に編成・実施する。 ・豊かな人間性とともに基礎となる学力の形成を図る基盤教育科目と、専門的な知識と技能を修得する専門教育による体系的なカリキュラムを編成する。 ・授業は、知識を体系的に獲得する講義、その知識を実践的に修得する演習・実験・実習により実施する。また学生の主体的な学びを促進するための教育プログラムを各学群で実施する。 ・基盤教育科目は、将来にわたって明日の姿を見通すための力を身につける技法知・学問知・実践知を修得するための宮城大学共通の教育基盤として、以下の方針により編成する。また、基盤教育科目の中核として、将来の社会に求められる基礎力の養成と地域社会や情報技術の理解のためのフレッシュマンコア科目を置く。	
1 知識・技術	幅広い知識と技術を修得するため、社会科学、自然科学、芸術・人文学、人間科学、情報統計の諸種の学問領域における広範な知識・技術を修得するための科目群を置く。
2 思考力・判断力	科学的根拠に基づく論理的な思考・判断力を養成するために能動的な学修機会を積極的に設けるとともに、フィールドワーク等を通じて実践的な課題に取り組む学修機会を設定する。
3 表現力	自己表現の技術と他者とのコミュニケーション力を育成するために、発表や議論の場を積極的に設ける。また、グローバルコミュニケーション科目を通じて国際的なコミュニケーション力の育成を図る。
4 主体性	主体的に学び続ける力を養成するために、導入科目において自らの将来を踏まえ主体的に学ぶことの意義を理解するための教育を実施する。
5 協働性	他者との協働性を養成するために、導入科目を中心として協働的な活動を取り入れた教育を展開する。

※各学群・学類のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーは、各章の教育目標を参照してください。

3 学群・学類について

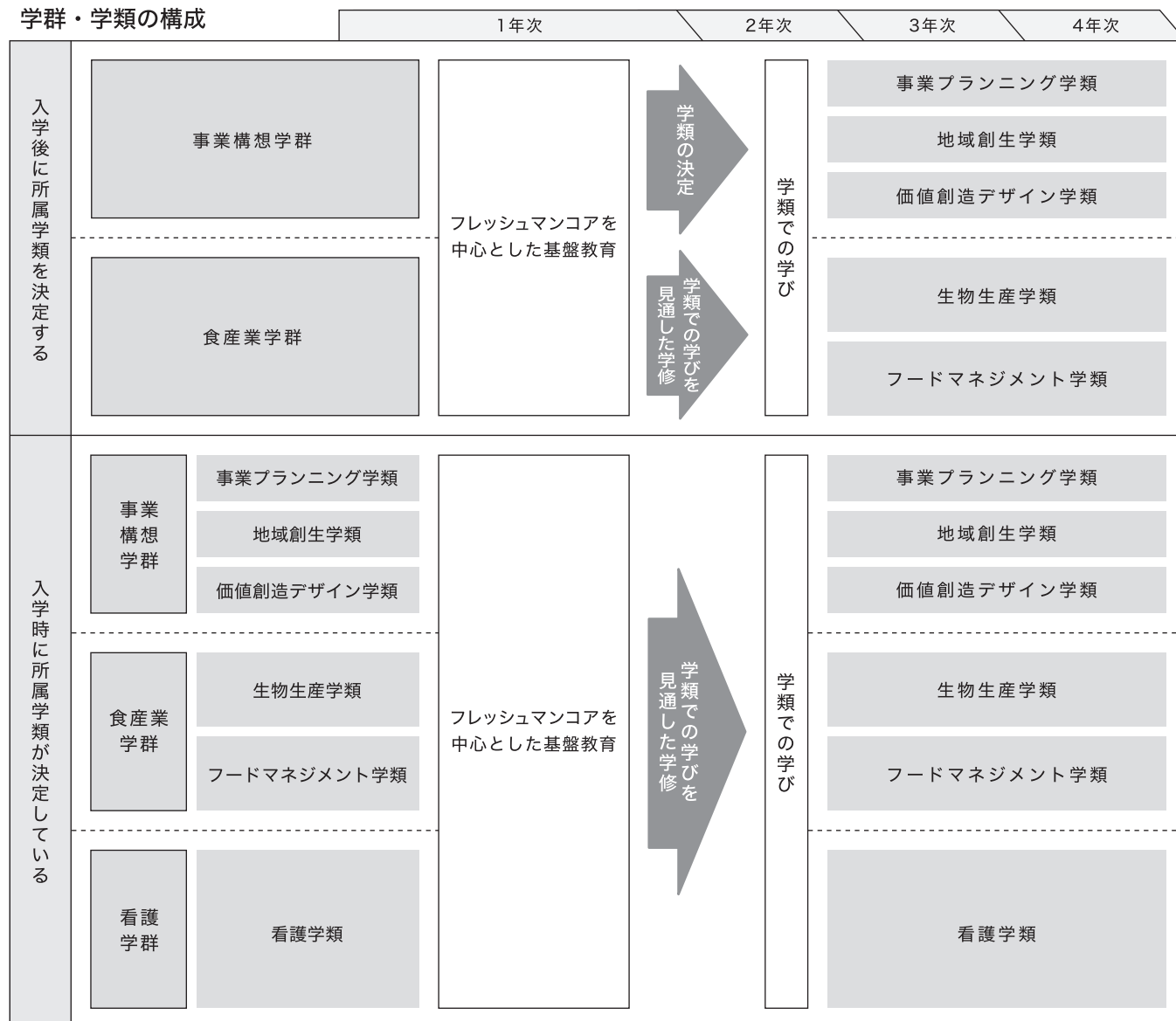
宮城大学は、学群・学類（3学群・6学類）により構成されています。

学群	学類
看護学群	看護学類
事業構想学群	事業プランニング学類 地域創生学類 価値創造デザイン学類
食産業学群	生物生産学類 フードマネジメント学類

看護学群では、入学時に所属する学類が決まっており、2年次からの学びを見通し、1年次から学修に取り組むことができます。また、事業構想学群及び食産業学群では、2年次に所属する学類が決定されます（総合型選抜及び外国人留学生特別選抜での入学生を除く）。入学後、1年間をかけてマッチングを行い、自分が進む学類を決定します。

※基盤教育・各学群・学類のカリキュラムの詳細は、各章のカリキュラムの特徴を参照してください。

学群・学類の構成



I

宮城大学カリキュラムの全体像

II

総論

III

履修登録

IV

全学共通科目ほか

V

基盤教育

II. 総論

ここでは、宮城大学における教育課程の修業に係る共通事項を説明します。これらの内容の詳細は、宮城大学学則、宮城大学履修規程及び宮城大学学位規程に記載されています。

1 入学から卒業までの基本的な流れ

入学から卒業・学位授与までの基本的な流れは下図のとおりです。それぞれの段階で必要な手続きや申請がありますので注意してください。



2 学群とキャンパスについて

宮城大学では、看護学群・事業構想学群・食産業学群及びそれぞれの研究科を設置しています。各学群は、以下のキャンパスに所在しています。

	宮城大学大和キャンパス	宮城大学太白キャンパス
設置学群	看護学群・事業構想学群及び研究科	食産業学群及び研究科
住所	〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1 番地 1	〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2-2-1
電話	022-377-8205	022-245-2211

3 学年及び休業日と、学期、時間割について（学則第 6 条、第 7 条、第 8 条）

(1) 学年、学期及び休業日

本学の教育課程は、以下の日程で運用しています。また、学年を前期と後期にわけて単位認定を行う「前後期制」を採用しています。

	期間
学年	4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わります。
前期	4 月 1 日から 9 月 30 日まで
後期	10 月 1 日から 3 月 31 日まで
休業日	土・日・祝日・開学記念日 5 月 1 日
春季休業日 夏季休業日 冬季休業日	別に定める。（春季・夏季・冬季休業の日程は年度ごとに変更になる場合があります。当該年度の長期休業の日程は、学内ウェブサイトの「学年暦」を確認してください。）

※後期の授業開始日は、10月1日より前となる場合があります。

※なお、定期試験は、前期末・後期末に期間を定めて実施します。

(2) 時間割

授業は、前期・後期の期間内のうち、月曜日から金曜日まで、下表の時間割に沿って行われます。

時限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
時刻	8 : 50 } 10 : 20	10 : 30 } 12 : 00	12 : 50 } 14 : 20	14 : 30 } 16 : 00	16 : 10 } 17 : 40

また、通常の時間割以外に、以下の開講形態があります。

①集中講義：夏季休業等の休業日に、集中的に授業を開講するものです。

②隔週開講：1 週おきに開講するものです。

③指定日開講：特定の日に開講するものです。

その他、学外の実習等、通常の時間割以外の時間帯に授業を行う場合があります。

4 学籍と在学期間について (学則第18条、第19条、第21条、第23条、第24条、第26条)

学籍とは、本学に所属する学生であることを示す籍をいいます。

(1) 学籍の異動

本学に入学してから卒業するまでの間、通常通り修業する状況を「在学」として取り扱います。学生の申請や大学の決定により「休学」「転学」「退学」「除籍」として学籍を異動する場合があります。これら学籍の異動に必要な手続きは、学内ウェブサイトを参照してください。

また、学籍の異動は、進級要件や卒業要件、授業料免除申請や奨学金の付与等に影響することがあります。

(2) 修業年限及び休学期間の限度、在学年限

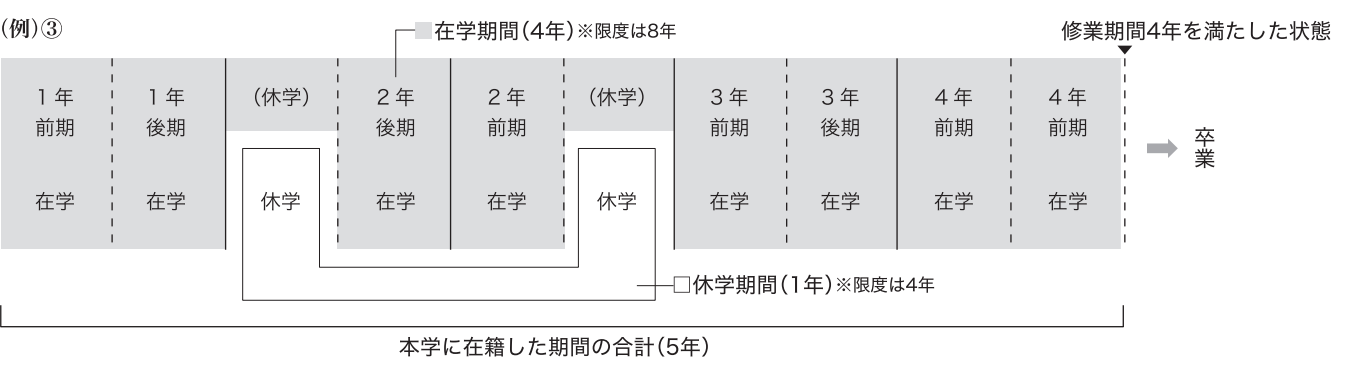
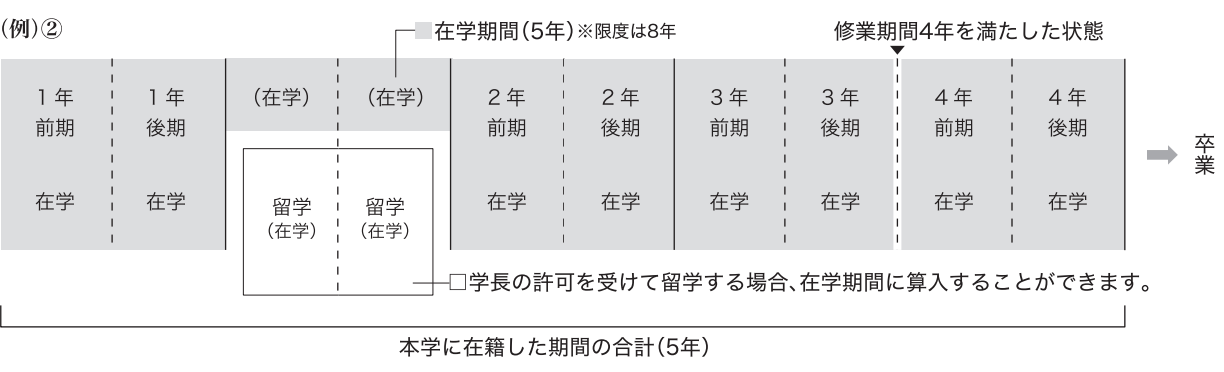
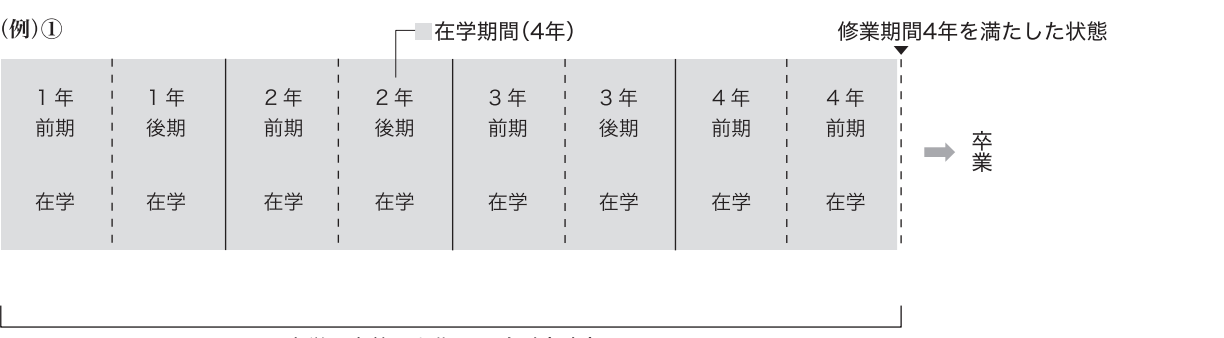
本学では、必要な修業の期間や、在学できる期間の限度を以下のとおり定めています。

- ・ 修業期間：修業した期間を「修業期間」といいます。
- ・ 修業年限：卒業までに修業すべき年数を定めています。
- ・ 在学期間：在学した期間を「在学期間」といいます。
- ・ 在学年限：在学できる年数です。在学年限を超えて在学することはできません。
- ・ 休学期間：休学した期間を「休学期間」といいます。休学期間は、修業期間や在学期間には含みません。

修業年限	在学年限	休学期間の限度
4 年	8 年	4 年

※引き続き 1 年を超えて休学することはできません。ただし、特別の理由がある場合は、学長の許可を得て休学期間を 2 年まで延長することができます。

※編入学・転入学・再入学・転学を許可された学生の在学期間及び在学年限については、関係規程により個々に定められます。



5 単位について (学則第34条、第35条、第36条、第37条、第38条、第39条、第40条、第41条、履修規程第15条、) 宮城大学他学群・他学類履修及び他大学履修に関する実施要綱

単位とは、各科目の授業時間と学修の量を数値で示したものです。学群ごとに卒業に必要な単位数が定められており、個々の科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに、はじめて修得できます。また、授業の開講形態（講義、演習、実習等）、開講時間数等により修得できる単位数が定められています。

(1) 単位の計算基準

授業科目「1単位」は、「教室内における授業時間」と「事前・事後学修時間」とを併せて45時間の学修時間により構成されることを基準としています。また、講義、演習、実習等の授業の方法に応じ、概ね以下の授業時間及び単位数としています。

講義	1時限（90分）の授業15回と事前・事後学修で2単位
演習	1時限（90分）の授業15回と事前・事後学修で1単位（2時限構成の場合2単位）
実験・実習・実技	2時限（180分）又は3時限（270分）の授業15回で1単位とします。 実験・実習と講義の併用は、2時限分の授業15回と事前・事後学習で2単位とします。

(2) 卒業要件単位数

卒業するためには、前述の修業年限を満たした上で、各学群で定める所定の卒業要件単位数を修得しなければなりません。必要単位数は下表のとおりです。

	看護学群	事業構想学群	食産業学群
卒業要件単位数	128単位	127単位	132単位

遠隔授業により修得する単位数は、60単位を超えない範囲で卒業要件として修得できます。

(3) 単位認定について

合格した科目の単位は、前期末・後期末に認定されます。集中講義については、開講時期に応じて、通常の科目と単位認定時期が異なる場合がありますので注意してください。なお、前期・後期の途中で退学・休学・除籍をした場合、その期に履修している科目の単位は認定されません。

また、他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は、学長の承認を得て、60単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他の大学又は短期大学における授業科目の履修、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位についても、申請・審査のうえ、学長が教育上有益と認められる場合、他学群・他学類の授業科目で修得した単位数と合わせて60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。

これらの他学群・他学類履修、他大学等履修、入学前単位の履修・単位認定に係る申請や、本学開講科目との振替、卒業要件単位への参入などについては、詳細をP24（IV全学共通科目ほか）に記載しています。



6 履修登録について（履修規程第3条、第4条、第5条）

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、履修登録が必要です。履修登録の手順の詳細はP18(III履修登録)に記載しています。

7 授業について

(1) 授業科目

授業科目には、講義、演習、実験・実習、実技があり、必修科目、選択必修科目、選択科目に大別されます。卒業要件として、これらの科目の修得単位数をそれぞれ定めています。

必修科目	学群、学類、コースにおいて、その教育目的を達成するために、修得が義務づけられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択必修科目	指定された科目群の中から、学生が一定数の科目を選択して修得することが義務づけられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択科目	学生の自由選択により履修することができる科目です。

(2) シラバス（授業計画書）

授業科目毎の授業内容を明示した授業計画等を「シラバス(syllabus)」といいます。

- ・シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法などが簡潔に説明されています。
- ・「学務管理システム」で参照することができます。(https://gakumu.myu.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx)
- ・シラバスは、履修登録の際や、履修の過程において、授業の目的や、全体の流れを確認することに活用してください。



(3) 授業への欠席及び遅刻

単位の修得には、授業への出席が必要です。

- ・一定の出席時間に満たない場合は、試験の受験資格を喪失します。
- ・欠席届や忌引の取扱いはありません。欠席及び遅刻に対する取扱いは担当教員が判断します。
- ・学校感染症（新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等）と診断された、または、その疑いがあると診断されたら、出席停止となります。出席停止の扱いを受けるためには、所定の手続きが必要です。詳細については学内ウェブサイトを参照してください。

(4) 休講

授業が休止になることを休講といいます。休講は、学務管理システムや学内メールで連絡します。

※なお、休講は担当教員の都合による他、気象状況や自然災害等による場合があります。気象状況や自然災害等による休講・試験の延期については、PI7に記載されています。

(5) 補講

補講は、休講等により授業時間が不足し、所定の内容が修得しきれないと教員が判断した場合に行われます。補講の有無は、授業中にアナウンスされるほか、休講の連絡方法と同様の方法で連絡します。

(6) 授業評価アンケートシステム nigala（ニガーラ）M1について

nigalaM1(Network system Information Guiding Achievement and Learning Academic)は、学生による授業評価アンケートの回答、教員による確認できるシステムです。

アクセスする際は、ログインページのURL(https://achievement.myu.ac.jp/aml)に直接アクセスしてください。

詳しくは、alagin/nigalaM1利用マニュアルを参照してください。本学では、授業をより充実したものに改善することを目的に学生による授業評価アンケートを実施しています。学期末に学内メール等で案内されますので、履修した科目について回答してください。



8 成績の評価方法について (学則第30条、第36条、履修規定第7条、第8条、第9条、第10条、第11条)

授業科目における成績は、シラバスで示された授業の到達目標に対する学生の学修到達度によって下表のように評価されます。「秀」、「優」、「良」及び「可」を合格として単位が付与されます。学修到達度は、その授業の開講時期の末に期間を定めて行う試験によって評価されます。

なお、必修科目について成績の評価が「不可」となり、単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修を行い、単位を修得する必要がありますので注意してください。

評価	評点	学修到達度との関係
秀	90点以上	学修到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している。
優	80点以上90点未満	学修到達度が優秀な水準で到達目標に達している。
良	70点以上80点未満	学修到達度が良好な水準で到達目標に達している。
可	60点以上70点未満	学修到達度が到達目標に達している。
不可	60点未満	学修到達度が到達目標に達していない。

(1) 試験 (履修規定第7条)

期末試験は、筆記試験、口述試験、実技試験又は実験、実習、課題レポートにより行います。受験の際は、学生証を机上に提示することで本人確認を行いますので、学生証を必ず持参してください。下表の内容に該当する場合は、試験を受けることができませんので注意してください。

①	履修登録をしていない学生。
②	出席時間が授業時間の5分の4に満たない学生。
③	試験時刻に20分を超えて遅参した学生。

期末試験の日程は、試験期間前に、学務管理システムや学内メールでお知らせします。

(2) レポート・制作物等の提出方法

レポート・制作物等を提出する際は、次の点に注意してください。

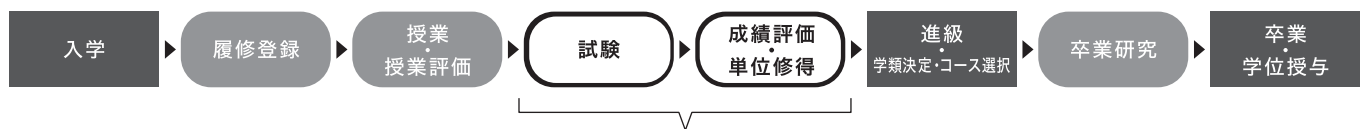
提出方法	担当教員により、提出場所や方法の指示がなされますので、指示に従ってください。 また、提出期限を必ず守って、所定の場所に提出してください。 下記のレポートボックスへ提出が指示される場合があります。	
	[大和キャンパスレポートボックス] ※本部棟3階及び4階、研究ラウンジ受付に設置	[太白キャンパスレポートボックス] ※管理棟1階事務局入口付近に設置
	※誤って他の科目のレポートボックスに投函されたレポートは、提出期限後に未提出扱いとして本人に返却します。	
記載事項	①所属学群・学類・コース、②学籍番号、③氏名、④授業科目名、⑤担当教員名を記載してください。 その他担当教員から指示された事項があれば記入してください。 氏名等が未記入の場合は、評価の対象となりませんので注意してください。	

(3) 追試験 (履修規定第9条)

所定の試験に欠席した学生に対する追試験は実施しません。ただし、病気その他特別の理由によりやむを得ず受験できなかった学生に対しては、本人からの願い出により追試験を行うことがあります。追試験の申請は、試験終了後1週間以内に、所定の様式により申請を行い、担当教員の承認を得る必要があります。様式や添付書類等は、学内ウェブサイトを参照してください。

(4) 再試験 (履修規定第10条)

試験を受験して不合格になった学生に対する再試験も実施しません。ただし、試験終了後に教授会等が必要と認めた場合は実施されることがあります。なお、再試験の成績評価は可が上限となります。



(5) 不正行為について（学則第30条、履修規定第11条）

試験において不正行為をした学生に対しては、当該学期に登録しているすべての履修科目の成績が不可となるほか、学則による懲戒処分を行います。

- ・授業の出席に関し虚偽申告を行った学生に対しては、当該科目の成績評価は不可となるほか、その不正行為の状況によっては、学則により懲戒処分を行うことがあります。

(6) グローバルコミュニケーション科目の受験資格の認定について

基盤教育の「グローバルコミュニケーション科目」では、学外の検定試験等において所定の条件を満たした場合、申請・審査の上、授業の出席が一部免除されることがあります。ただし、学外の検定試験等については、申請日以前の2年以内に受験したものであるほか、出席を一部免除された場合でも、定期試験は必ず受験する必要がありますので注意してください。

詳しくは「グローバルコミュニケーション科目」の専任教員へお問合せください。

(7) 成績発表について

授業科目における成績の評価については、前期は9月末、後期は3月末に学修状況チェックシステム alaginM1で確認することができます。（詳細は「(9)学修状況チェックシステム alaginM1について」を参照）。また、評価の内容は成績証明書に反映されます。

※「不可」の評価となった科目に限り、今後の学修に資するため、成績発表日を含む10日間のみ、成績質問を受け付けます。成績質問は、学内ウェブサイトから所定の様式を取得し、提出してください。

(8) GPA制度

本学では、GPA制度を採用しています。GPA（グレードポイント平均値）とは、各授業科目の評点に基づきGP（グレードポイント）を付与して算出する、1単位あたりの平均値です。GPは次の式により求めた値とします。

$GP = (\text{評点} - 55) / 10$ ただし、 $GP < 0$ 、5は $GP = 0$ 、0とする。

- ・学修状況および成果を示す指標として「学期GPA」「年度GPA」「通算GPA」の3種類を設定しています。計算式は以下としており、小数点第3位以下を切り捨てて表記しています。

①学期GPAの計算式

学期GPA =
$$\frac{(\text{その学期に評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

②年度GPAの計算式

年度GPA =
$$\frac{(\text{その年度に評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その年度に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

③通算GPAの計算式

通算GPA =
$$\frac{((\text{各学期に評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}) \text{の総和}}{(\text{各学期に評価を受けた科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$$

- ・GPAは、卒業要件となる授業科目に含まれるものを対象科目としています。以下の科目はGPA対象科目に含まれません。

- ア)編入学または転入学した際の単位認定科目
- イ)本学入学前に修得した単位認定科目
- ウ)他大学等との単位互換等で修得した科目

- ・履修登録した科目を放棄すると、科目の成績は「不可」となり通算GPAに算入されます。履修を取り消す場合は、必ず履修取消期間中に所定の手続きを行ってください。

(9)学修状況チェックシステム alagin(アラジン)M1について

alaginM1 (Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) は、成績GPA、履修単位数などの学修状況をいつでも確認できるチェックシステムです。

アクセスする際は、ログインページのURL(<https://achievement.myu.ac.jp/am1>)に直接アクセスしてください。

詳しくは、学内ウェブサイトにあるalagin/nigala M1利用マニュアルを参照してください。なお、毎学期末に行われる授業評価アンケート実施期間中はそのアンケートに回答した後にalaginM1にアクセスできるようになっています。



9 進級について（履修規程第12条）

	看護学群	事業構想学群・食産業学群
全年次共通	配当年次において未修得の必修単位が通算（※）6単位以下であること。 （複数の年次で配当されている科目は、上級年次が配当年次） （※）通算とは、入学時からの累積	
2年次進級要件	卒業要件単位数のうち30単位以上を修得していること。	
3年次進級要件	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。 1・2年次に開講されている必修の専門教育科目の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。
4年次進級要件	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 3年次に開講されている実習（母性、小児、成人、老年、精神、地域、在宅、看護マネジメントの8つの領域）の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 ※事業構想学群及び食産業学群は、加えて3年次に開講されている卒業研究科目の単位を修得していること。

10 学類の決定・履修コースの選択について（学則第21条、履修規定第13条、第14条）

（1）学類の決定

入学時に学類が決定していない学生は、1年次末までに所定の方法により所属する学類が決定されます。学類毎に定員を設定していますので、必ずしも希望する学類に所属できるとは限りません。学類の決定方法等については、ガイダンス等で案内されます。

（2）履修コースの選択

事業構想学群価値創造デザイン学類では、専門性の高い科目を学べるよう履修コースを設けていますので、履修コースの届出時期までに希望するコースの届出を行ってください。

学群	学類	履修コース	届出時期
事業構想学群	価値創造デザイン学類	感性情報デザインコース 生活環境デザインコース	2年次前期（4月）の所定の期日まで

11 転学群・転学類及びコース変更について

（1）転学群・転学類について（学則第22条、転学群及び転学類に関する規定）

諸事情により転学群・転学類を希望する場合、後述するクラス担当教員等に相談してください。転学群及び転学類の選考は、原則として欠員のある場合に限り行います。また、新たな転学類等を受け入れるかどうかは、教育上の支障の有無を勘案した上で判断するので、毎年度必ず選考が行われるとは限りません。詳細は、学内ウェブサイトにある「宮城大学転学群及び転学類に関する規定」で確認してください。

（2）コース変更について（履修規定第14条）

選択した履修コースの変更を希望する場合は、所属する学群の学群長の許可が必要となります。手続き方法や時期等については、後述するクラス担当教員等に確認してください。



12 卒業認定・学位授与について (学則 41 条)

修業年限を満たし、各学群で定める卒業要件を満たした学生は、卒業が認定され、学位が授与されます。各学類を修了した者に授与される学位は下表のとおりです。

	学類	学位
看護学群	看護学類	学士（看護学）
事業構想学群	事業プランニング学類	学士（事業プランニング学）
	地域創生学類	学士（地域創生学）
	価値創造デザイン学類	学士（価値創造デザイン学）
食産業学群	生物生産学類及びフードマネジメント学類	学士（食産業学）

13 学修支援について

学修や進路上、学生生活の悩みや不安などがある場合、以下にご相談ください。
なお、非常勤講師への学修上の相談や質問は、非常勤講師の来学時に行ってください。

(1) 教員に相談したいとき

スタートアップセミナーⅠ、Ⅱの担当教員が窓口となって相談を受け付けます。担当教員以外の教員も受け付けますが、業務上、各教員の都合がつかない場合もありますので、各教員へメール等で事前連絡の上、相談してください。

(2) 職員に相談したいとき

事務局の窓口が利用できる時間帯は、平日8：30～17：50です。事務職員への相談や書類等の提出は、事務局窓口が利用できる時間帯で行ってください。

(3) 学生相談室、保健室について

- ・保健室：大学構内でのケガや体調不良については、保健室で対応することが可能です。
- ・学生相談室：カウンセラーが常駐し、対人関係、こころの健康、生活全般、学業・進路など、学生生活における困りごとをはじめ、様々な相談ができる場所です。費用は無料で、プライバシーは厳守されます。
- ・利用時間は学内ウェブサイトを確認してください。

(4) 合理的配慮について

合理的配慮とは、障がいや持病を有する学生に、大学での学修を進める上で必要な配慮を行い、障壁（バリア）となるものを除去することを意味します。障がいや持病の有無にかかわらず、すべての学生が、公平で平等に学修を進めることができるようにするためです。合理的配慮を希望する場合は、スチューデントサービスセンター（事務局）に相談してください。

14ーその他

(1) 大学からの連絡

学内行事、集中講義などで連絡事項が発生した場合や、学生生活に関する重要なお知らせは、学内メールで周知する場合がありますので、学内メールを確認してください。

また、学内メールの他、学務管理システム(<https://gakumu.myu.ac.jp>からログイン)等を通じて連絡を行うことがあります。



(2) 気象状況や自然災害等による休講・試験の延期

気象状況や自然災害等により学生及び教職員の通学・通勤が困難な場合や困難になると想定される場合は、安全確保のため休講及び試験の延期措置を行います。

時間帯	気象状況	休校
午前7時の時点	仙台市又は大和町に 大雨・洪水・暴風・大雪・暴風雪のいずれかの「 <u>警報</u> 」が発令され、スチューデントサービスセンター長により休講及び試験の延期措置が必要と判断された場合。 (JR在来線〈東北本線・常磐線・仙山線・仙石線〉の仙台駅を含む区間の <u>運休又は運転見合わせ</u> や <u>仙台市内小中高校の休校</u> を目安として判断します。)	午前の授業 (1・2限)『休講』
午前10時の時点		午後の授業 (3～5限)『休講』
※実習、インターンシップ等学外で実施される科目の実施有無については、当該基準に準じ各担当教員(看護学実習の場合は学群長又は実習ワーキンググループ長)の判断によります。		

上記のほか、学長及びスチューデントサービスセンター長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合学外ウェブサイト、メールなどによって周知されます。

(3) 学生保険について

学内外で教育研究活動中、実習中、通学途中、サークル活動中などに発生した傷害事故(自分自身のケガ)・賠償事故(他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりした場合の補償)に備えるため、入学時に学生保険に加入しています。詳細は、学内ウェブサイトの「学生便覧」に記載していますので、参照してください。

(4) 経済支援について

授業料の納付や、減免等申請、奨学金に係るお知らせなどは、学内ウェブサイトの「学生便覧」に記載していますので参照してください。

III. 履修登録

ここでは、履修登録に係る手続きについて説明します。これらの内容の詳細は履修規程で定められています。

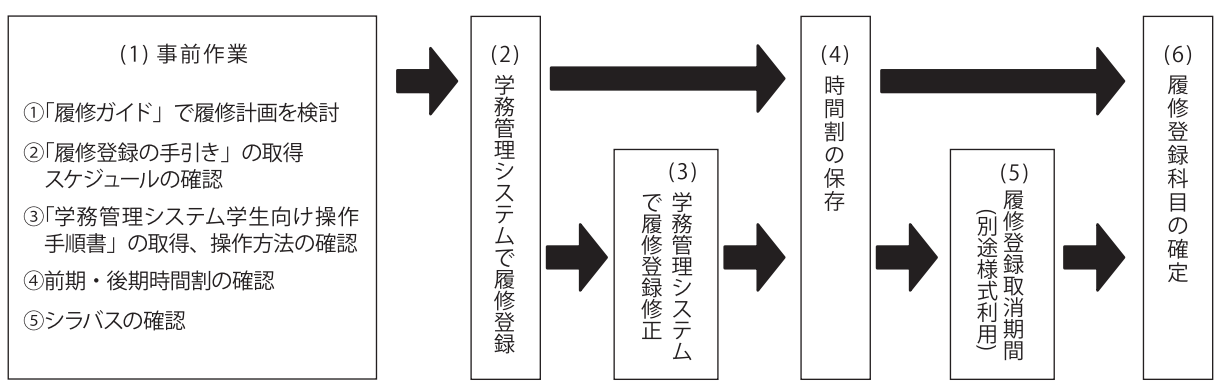
1 履修登録とは

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、定められた期間内に履修登録を行う必要があります。計画を立て、確実に卒業要件を満たすように履修登録を行ってください。

本学では、履修登録に学務管理システムを利用します。

2 履修登録の手順

履修登録の手順は、下図のとおりです。



(1) 事前作業

- ①「履修ガイド」で履修計画を検討
履修ガイドには、各学群のカリキュラムの他、年次科目の詳細が記載されています。自分の希望する進路に合わせて、履修計画を検討してください。
- ②「履修登録の手引き」の取得、スケジュールの確認
学内ウェブサイトにて、「履修登録の手引き」が掲載されます。履修登録に係る詳細のスケジュールなど、重要な情報が記載されていますので必ず確認してください。
- ③「学務管理システム学生向け操作手順書」の取得・確認
学内ウェブサイトにて「学務管理システムの操作手順書」が掲載されます。基本的な操作手順が記載されていますので、確認してください。
- ④ 時間割の確認
学内ウェブサイトにて、当該年度の前期・後期の時間割が掲載されます。同日・同じ時限に開講されている科目は同時に履修できませんので、注意してください。
- ⑤シラバスの確認
学務管理システムから授業科目のシラバスを確認することができます。シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法、ナンバリング（詳細は P19「4 科目ナンバリング」を参照）などが簡潔に説明されていますので参考としてください。

(2) 履修登録

定められた期間内に学務管理システムで履修登録の操作をしてください。選択された内容は、学務管理システムの「時間割」で確認することができます。また、後期に開講する科目についても前期の履修登録期間に履修登録を行う必要がありますので注意してください。

(3) 履修登録修正

履修登録の内容を修正したい場合、定められた期間内であれば、学務管理システムから登録内容を修正することができます。後期科目については、後期授業開始後に同様の修正期間を設けます。

(4) 時間割の保存

履修登録が行われたことを確認するため、最終的な登録結果として、時間割を保存してください。なお、所定の期間を過ぎてからの登録内容の追加・変更には応じられませんので、注意してください。

(5) 履修登録取消期間

定められた期間内であれば、履修登録を取り消すことができます。履修登録を行った科目は、自己都合で受講を取りやめても「不可」として評価され、GPAに反映されます。履修の意思がない場合は、定められた期間内に履修登録の取り消しを行ってください。

(6) 履修登録科目の確定

履修登録に係る所定の手順を終えると、最終的な登録内容が学務管理システムの時間割で確認できます。登録内容が(4)で保存した時間割と異なっている場合は、事務局に連絡してください。

3 履修登録上の留意点

(1) 履修登録可能な単位数の上限

本学では、履修登録できる単位数の上限を定めています。

	履修登録単位数の上限
1～4年次	各年次における履修登録単位数の上限は、年間49単位まで
※ただし、以下の科目の単位数は、履修登録単位数の上限には含まれません。 ・各学群の卒業要件に含まない科目 ・春季休業日、夏季休業日及び冬季休業日に開講される集中講義等の科目 ・他大学又は短期大学から履修を許可された科目のうち、教授会が特に必要と認めた場合	

(2) 単位修得済み科目の履修登録の禁止

一度単位を修得した科目は、再度履修登録を行うことはできません。

(3) 集中講義科目の日程確認

集中講義科目を2科目以上履修する場合は、日程が重複していないかどうかを十分確認した上で履修登録してください。

(4) その他

履修登録期間中には、履修登録に係る連絡事項が伝えられますので、学務管理システム、学内メールを確認してください。

4 科目ナンバリング

(1) 科目ナンバリングとは

学びの分野や順序等を表す番号に科目に付け、教育課程の体系性をわかりやすく明示する仕組みです。授業の性格、位置づけ等を明示していますので、科目履修の際の参考としてください。

(2) 付番方法

原則として学類ごとに、科目に固定して付番しています。同一科目でも、所属学類が異なると番号が異なります。なお、授業科目の見直し等により再付番する可能性があります。本学における科目ナンバリングは次の構成とします。

AB	-	CDEF		1		01			
①		②		③		④		①学群・学類コード	②学問分野コード ③配当年次 ④順序番号

※コード表は、学内ウェブサイトで参照できます。

例) 科目名「スタートアップセミナーI」のナンバリングFA-INTR101は以下の内容を示します。

学群・学類コード: 基盤教育群 (FA) 学問分野コード: 導入科目 [Introductory Subjects] (INTR) 配当年次: 1年次 (1)

順序番号: ①～③の付番が同じ組合せとなるグループの中で1番目に位置づけ (01)

I	宮城大学カリキュラムの全体像
II	総論
III	履修登録

IV	全学共通科目ほか
V	基盤教育

IV. 全学共通科目ほか

1 地域連携実践教育プログラムについて

(1) 地域連携実践教育プログラムとは

地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人々と共に課題解決ができる人材の育成を目指し、宮城大学と兵庫県立大学が連携して構築・推進している教育プログラムです。このプログラムでは、地域コミュニティの現場に触れ、自らの目で見て・聞いて・体験し、学習することで、地域の人々と共に考えながら、地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの提案を行える技能の習得を目指しています。

(2) 単位

必修科目は、コミュニティ・プランナー（CP）基盤科目である基盤教育科目の「地域フィールドワーク」1科目1単位、コミュニティ・プランナー開講科目の「コミュニティ・プランナー概論および演習」「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」の4科目6単位。また、選択科目として、各学群既存科目である「コミュニティ・プランナー関連科目」のうち2領域以上から7科目13単位以上を履修します。合計20単位以上を履修することで宮城大学・兵庫県立大学「コミュニティ・プランナー育成プログラム」の運営に関する覚書に基づき、卒業時に『コミュニティ・プランナーアソシエイト』の称号及び証書が授与されます。

〈コミュニティ・プランナー（CP）プログラム科目構成〉

コミュニティ・プランナー基盤科目（5科目7単位）+コミュニティ・プランナー関連科目（7科目13単位以上）=計20単位以上



※看護学群生が、CP開講科目の「CP実践論」「CPフィールドワーク演習Ⅰ」「CPフィールドワーク演習Ⅱ」を履修する際には、他学群履修の扱いとなります。



『コミュニティ・プランナー アソシエイト』称号及び証書 授与

＜CP概論および演習＞

地域社会で活躍する専門家と連携したグループ演習により、現地調査の方法、ワークショップの運営、意見のまとめ方など、フィールドワークの基本的技能の習得を目指します。

＜CP実践論＞

実践者・専門家の講義やフィールドワークを通じた事例分析により、CPとしての知識・理解を深めます。

＜CPフィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱ＞

コミュニティ再生の実践的経験を通して、CPとしての職能を理解しながら様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決手法の習得を目指します。

(3) プログラムの考え方および特色

①GREENの視点

持続可能(サステナブル)な地域コミュニティを構築し、維持してゆくためには、緑ある環境をベースにして、人、植物、動物、すべての生命(いのち)がつながり、関わり合うことが必要です。本プログラムでは、このような、すべての生命(いのち)のつながり、関わりを意味するものを「GREEN」と呼びます。「GREEN」は花や樹木などの植物だけでなく、「みどり色」の持つイメージそのものを指し、光り輝く緑からイメージできる生命(いのち)の輝き、人びとが集い、笑顔があふれる地域社会など、持続可能な地域社会を支える新しい視点です。

②ステークホルダーと連携したフィールドワーク

カリキュラムは主に「講義+フィールドワーク(実践)」の形式を取り、フィールドでの実践を通して講義での学びを深めていきます。また、第一線で活躍する専門家と共に学ぶことのできる実践的な科目構成となっています。自治体や企業・NPO等の地域社会のステークホルダーと連携したフィールドワークを取り入れることで、コミュニティから求められている企画力やファシリテーション能力、プレゼンテーションや実行力といった社会に貢献できる能力を育成します。

(4) 履修方法および履修手続等

①履修方法

通常の履修登録と同様に学務管理システムで行ってください。履修登録の際は、別冊で配布される「履修登録の手引き」をよく確認してください。

②履修登録単位数の上限と卒業要件単位への算入

履修登録単位数には上限があります。P19「3(1)履修登録可能な単位数の上限」を確認してください。なお、卒業要件単位に入らない科目は、履修登録単位の上限からも除外されます。

全学群(看護学群、事業構想学群、食産業学群)において、基盤教育科目「地域フィールドワーク」と「コミュニティ・プランナー概論および演習」が卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」は卒業要件単位には入りません(地域創生学類を除く)。

③看護学群生による履修

看護学群生が、コミュニティ・プランナー開講科目の「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」を履修する際には、他学群履修の扱いとなります。P24「2(1)他学群又は他学類の履修について・(2)単位認定に係る申請について」を確認してください。

④コミュニティ・プランナー関連科目

コミュニティ・プランナー関連科目については、各学群学類で開講している既設科目の履修となります。他学群・他学類にて開講している科目を履修する場合には、学群学類毎に履修要件が異なります。詳しくは「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」を確認してください。

※コミュニティ・プランナー関連科目は、各シラバス・時間割どおりに開講されますので、別キャンパスの科目を履修する場合はキャンパス間の移動時間等に注意して履修登録を行ってください。

別表 コミュニティ・プランナー（CP）関連科目（2領域以上、7科目13単位以上を修得）

領域	科目名	開講年次	単位数	開講学類	科目名	開講年次	単位数	開講学類
グリーンケア	人間発達学	1前	2	看護	地域資源論	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	人間関係論	1後	2	看護	地域社会学	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	臨床心理学	1後	2	看護	コモンズデザイン論	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	災害活動論	1後	2	看護	地域医療福祉政策論	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	ライフステージ看護学概論Ⅰ (全学群の学生履修可)	1後	2	看護	地理情報分析	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	ライフステージ看護学概論Ⅱ (全学群の学生履修可)	2前	2	看護	ツーリズムデザイン	3後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	地域看護学概論	2前	2	看護	食農素材化学	2前	2	生物生産
	地域学	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	食品衛生学	3前 2前	2	生物生産 フードマネジメント
	行政学	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	動物生殖学	2後	2	生物生産
	地域調査法	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	生理学	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	栄養科学	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	公共経営	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	コミュニティビジネス	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域分析学	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	ライフステージ栄養学	4前	2	フードマネジメント
計28科目								
グリーンデザイン	地域学	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	コモンズデザイン論	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	行政学	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	災害の科学(水)	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	地域調査法	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	地域環境政策	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	国土・地域計画	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	地理情報分析	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	災害の科学(土)	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	風土・伝統デザイン	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	防災計画	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	ビジネスプロセス論	3後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	都市と文化	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	農業農村振興論	3後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	社会調査法	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	景観工学	3後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	公共経営	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	ツーリズムデザイン	3後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	コミュニティビジネス	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	地区・街区計画	3後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	地域分析学	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	サステナブルデザイン	4前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン
	都市計画	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	地域食産業論	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域プロジェクトマネジメント	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	アグロテクノロジー	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域資源論	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	環境科学	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	地域社会学	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	食産業政策論	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	ユーザビリティ	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	CSR・CSV	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	グローバル共生論	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	食文化論	4前	2	フードマネジメント
	交通計画	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	計37科目			
グリーンビジネス	公衆衛生学	1後	2	看護	食品マーケティング基礎	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域活性化とビジネス	1後	1	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	地域食産業論	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域学	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	施設園芸学	2後	2	生物生産
	行政学	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	アグリビジネス論	2後	2	生物生産
	地域調査法	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	食材生産経営学	2後	2	生物生産
	地域企業論	2前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	畜産食品学	2後	2	フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	水産食品学	3後 2後	2	生物生産 フードマネジメント
	公共経営	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	食料・農業・農村政策	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	コミュニティビジネス	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	露地園芸学	3前	2	生物生産
	地域分析学	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	ローカルフードシステム論	3前	2	フードマネジメント
	地域資源論	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	食産業政策論	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	地域社会学	2後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	付加価値食材生産法	3後	2	生物生産
	コモンズデザイン論	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	暮らしと作物	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域産業政策	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	動物生産管理学	3後	2	生物生産
	地理情報分析	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	現代食農ビジネス論	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	社会起業論	3前	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	ツーリズムデザイン	3後	2	事業プランニング／地域創生 価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	計34科目							

2 他学群・他学類履修、他大学等履修、入学前既修得単位の単位認定について

(1) 他学群または他学類の履修について

他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は、学長の承認を得て、60単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他学群・他学類として学生が申請できる授業科目は下表のとおりです。

学群	他学群・他学類の学生が申請できる授業科目の範囲
看護学群	授業形態が「講義」区分の科目
事業構想学群	科目区分「卒業研究」を除く全ての科目
食産業学群	全ての科目（ただし、科目区分「卒業研究」については、食産業学群の学生が、所属していない他学類の科目を申請できる）

(2) 単位認定に係る申請について

他学群又は他学類の授業科目の履修、他の大学又は短期大学における授業科目の履修等、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位の認定に係る申請は下表のとおりです。これらの申請が必要な場合は、事務局窓口にて、あらかじめ相談してください。

	学群	要件	履修に係る申請	単位認定に係る申請	
①	本学の他学群・他学類の授業科目を履修したいとき (他学群・他学類履修)	あらかじめ当該授業科目担当教員の確認を得ること	前期又は後期の授業科目履修登録期限前までに、 <u>承認申請</u> を行うこと	当該単位を修得した年の翌年の前期授業科目の履修登録期限日までに、 <u>在学中修得単位の認定申請</u> を行うこと ※1	あわせて60単位を超えないもの
②	在学中に、他の大学又は短期大学（外国の大学・短期大学を含む）、高等専門学校の専攻科等における授業科目を履修したいとき（他大学等履修）	他大学等との協議又は単位互換協定等に基づくもの	事前申請を行うこと		
③	入学する前に、大学又は短期大学において修得した単位を認定したいとき（入学前既修得単位）			入学初年度の指定された期日までに、 <u>入学前既修得単位の認定申請</u> を行うこと※1	
※1 ②、③の認定申請は、所定の申請書に加えて、以下の書類を添える必要があります。 ・成績証明書（単位を修得した大学等の発行するもの） ・申請する授業科目について、単位を修得した大学等が作成した授業科目の内容、単位制度等、単位の換算認定に必要な資料					

※なお、学都仙台単位互換ネットワークに関する協定に基づく授業科目に関する履修については、P26に記載しています。

(3) 単位認定された授業科目の本学開講科目との振替について

②他大学等履修、③入学前既修得単位として単位認定された科目については、本学開講科目において単位を修得したものととして、申請・審査の上、振り替えることができます。

本学開講科目への振替の可否は、学群教授会において、所属学群及び学類開講科目と、単位認定された科目の授業内容等を相互に比較し、その類似性により決定します。

ただし、看護学群において振替により卒業要件単位に算入することのできる授業科目は基盤教育のみとし、その上限を8単位としています。

(4) 振替できない科目の卒業要件単位数への算入について

単位認定された科目のうち、振替できない科目の卒業要件単位数への算入は下表のとおりです。なお、これらの科目について、卒業要件単位算入の認定を希望する学生は、別途申請を行う必要がありますので、事務局窓口にて、あらかじめ相談してください。

		区分（略称）	看護学群	事業構想学群	食産業学群	
外国人留学生を除く学生	①	他学群・他学類履修	算入不可	基盤教育科目に区分し 3 単位まで算入可能	基盤教育科目に区分し 3 単位、他学類科目は専門関連科目に区分し 8 単位、総計 8 単位まで算入可能	総計 8 単位まで算入可能
	②	他大学等履修			基盤教育科目に区分し、3 単位まで算入可能	
	③	入学前既修得単位				
外国人留学生	①	他学群・他学類履修	算入不可	算入不可	他学類科目は専門関連科目に区分し、総計 8 単位まで算入可能	総計 8 単位まで算入可能
	②	他大学等履修			算入不可	
	③	入学前既修得単位				

(5) 単位認定を受けた授業科目の成績表記について

単位認定された科目について、成績表記は下表のとおりです。なお、①については、本学の開講科目のため、成績及び科目担当教員名が明記されますが、②③については、単位が認定されたことのみ記載されます。

	区分		科目分類	科目区分	科目名称	単位数	成績評価の表記	科目担当教員名
①	他学群・他学類履修		他学群・他学類	履修した科目の区分	履修した科目の名称	履修した科目の単位数	秀・優良・可	記載
② ③	他大学等履修・入学前既修得単位	うち振替可能授業科目	他大学等	振替した科目の区分	振替した科目の名称	振替した科目の単位数	認定	空欄
		うち振替できない授業科目		—	履修した他大学等の授業科目名称	原則として、履修した他大学等の配当単位数		

3 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度

(1) 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度とは

学都仙台単位互換ネットワークは、この制度に参加する大学、短期大学、高等専門学校に在籍する学生が、他の参加校の授業科目を履修し、そこで取得した単位を在籍する大学等の単位として認定する制度です。この制度による授業科目の履修には、原則として、授業料はかかりません(放送大学の授業料を除く。実習費用等が別途かかる場合があります)。履修できる授業科目(シラバス)や受講者数、その他の条件等については、受入れ大学が決定し、募集要項に定めています。

提供される科目や出願期間は大学ごとに毎年変わりますので、詳細は、学都仙台コンソーシアム単位互換ネットワークのウェブサイト(<http://www.gakuto-sendai.jp/index.html>)を確認してください。



(2) 単位互換制度の申請方法

① 受講手続きの流れ

	募集要項・ 出願期間の確認		履修申請(出願)		履修許可・受講開始		成績連絡		卒業要件単位参入
前期	前年度3月		3月～4月		4月		10月		翌年度4月
後期	前年度3月		8月(大学により4月)		10月		3月		翌年度4月
手続きの流れ	各大学から提供科目・募集要項提示 ウェブサイトにて公開開始	→	ウェブサイトに出願期間提示 各大学の出願期間の1週間前までに単位互換願書を宮城大学事務局あてに提出	→	宮城大学事務局から履修の案内を受け取りしだい、授業の受講開始	→	宮城大学事務局より成績連絡	→	既修得単位認定の申請を宮城大学事務局に提出

② 出願資格

宮城大学に在籍する学生(大学院生、研究生、科目等履修生及び特別聴講生を除く。)で、申請し許可を受けた方が対象です。ただし、科目によっては、女子学生に限る場合や「〇年次生以上」という受講の制限を設けている場合がありますので、科目の履修を希望する大学等の募集要項を確認してください。

なお、相手先の大学によっては、最初の受講前に事前連絡が必要になる場合がありますので、各受入れ大学のウェブサイト、募集要項で確認してください。

③ 出願期間

出願期間は、前期科目及び通年科目は4月上旬、後期科目は9月中旬で、相手先の大学によって違います。希望する大学の出願締切の1週間前までに、宮城大学事務局へ④の願書を提出してください。なお、相手先の大学によっては、前期・後期科目ともに4月を出願期限としている場合があります。

④ 出願方法

履修を希望する場合は、「単位互換学生(特別聴講学生)願書」(共通様式または各校指定様式)に必要な事項を記入して、宮城大学事務局へ提出してください。その他必要書類があれば窓口でお知らせします。

⑤ 授業の履修

出願があってから、相手先の大学で審査が行われ、受講の可否が決定します。受入校からの「受入決定通知書」をもって履修決定となりますが、それ以前でも講義を聴講することは可能です。受講が決定したら宮城大学事務局よりお知らせします。

⑥ 成績連絡

履修した科目の成績は、宮城大学を通じてお知らせします。相手先大学から連絡があり次第、学内メール又は学務管理システムでお知らせしますので、宮城大学事務局窓口で受け取ってください。

⑦ 単位の認定及び卒業要件単位への参入

⑥で成績が通知された場合、既定の範囲内で単位の認定及び卒業要件単位に算入することができます。詳細は、「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」に定めていますので、学外ウェブサイトを確認して下さい。

4 学外研修・グローバルインターンシップ

(1) 学外研修・グローバルインターンシップとは

国内・海外を問わず学外における一定期間の計画的なプログラムに参加し、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「学外研修」の単位を修得することができます。また、主に海外における一定期間の研修を通して、グローバル人材として必要なスキル、社会で必要なコミュニケーション能力を身につけ、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「グローバルインターンシップ」の単位を修得することができます。

(2) 科目の履修方法

学外研修、グローバルインターンシップの2科目とも、学内選考のうえで参加が決定します。そのため、学務管理システムでの履修登録は行わず、国際交流・留学生センター、基盤教育群等から案内される募集手続きに従って応募・履修登録します。詳細は各担当部局で配布する募集要項等を確認してください。なお、看護学群は実習期間により参加できる日程が限られる場合がありますので、実習日程を確認の上で応募してください。

I

宮城大学カリキュラムの全体像

II

総論

III

履修登録

IV

全学共通科目ほか

V

基盤教育

メモ欄：

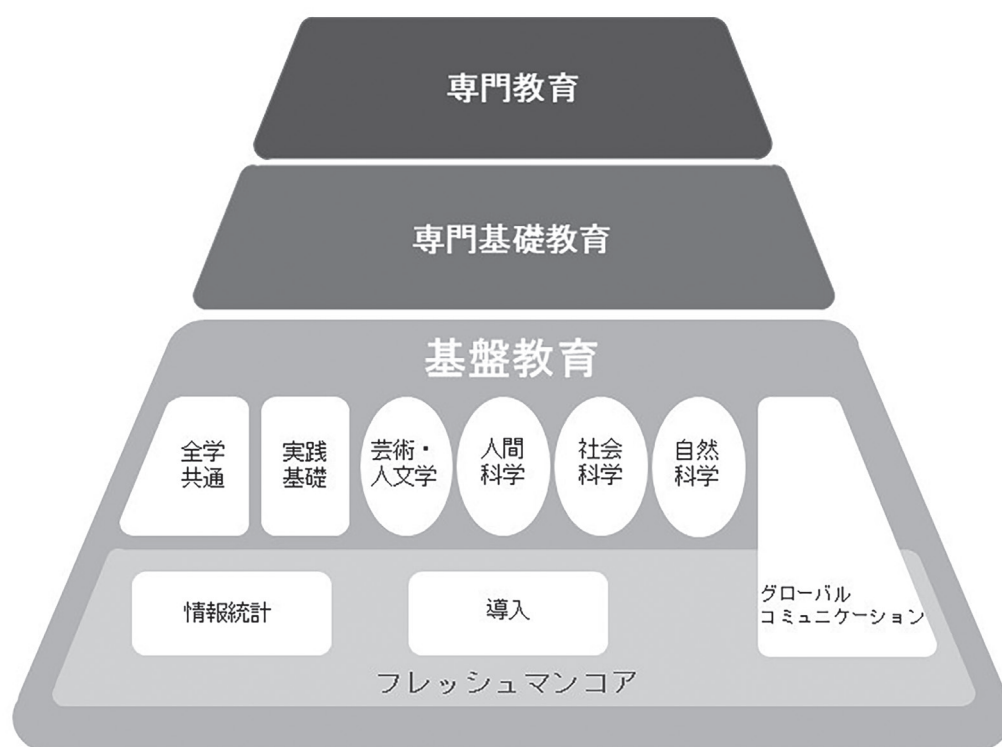
×毛欄：

[illegible]

V. 基盤教育

皆さんは大学での学びをどのようにお考えでしょうか。これまでの皆さんの学びの方法は、文法であれ、法則であれ、情報活用スキルであれ、あるいは歴史・文化・社会についての知識であれ、教えられたことを覚える、といったものではなかったでしょうか。しかし、大学での学びは、教えられたことを覚えるだけでは十分とはいえません。大学での学びの中心は、教えられたことを踏まえながらも、自ら考え、課題を見出し、その解決策を探求していくことにあります。そのためには、自ら調べ、考えを深めることのみならず、他者と意見を交わし、自らとは異なる見解や文化のなかに問題解決の可能性を探ることも必要となります。学問に触れ、地域とかかわり、他者と交わるなかで、身近な地域に、多様な社会に、そして広い世界のなかに自らを位置付けることによって、将来の展望を持つことができるようになります。宮城大学は、このような考えのもと、大学での学びが生涯の学びの糧となることを願っています。

その意味では、皆さんの大学での学びが充実したものとすることが肝要です。そして、そのための最初の働きかけが宮城大学の基盤教育です。基盤教育では、3つの力(知)を養います。1つ目は、基礎的な言語・数量・情報を使いこなす力(技法知)。2つ目は、学知を理解し、検討し、新たな視点を見出す力(学問知)。そして3つ目は、自己と他者への理解を深め、他者と協働しながら目標を達成する力(実践知)。これら3つの力(知)の修得を通じて、人間力の向上、生涯にわたって学び続ける力の涵養、そして明日の姿を見通す力の育成を目指します。



上の図に示すように、基盤教育は「導入科目」「情報統計」「芸術・人文学」「人間科学」「社会科学」「グローバルコミュニケーション」「自然科学」「実践基礎」「全学共通科目」の9つの科目分野から構成されています。各分野の概容については、ページをあらためて、ご紹介します。

1 フレッシュマンコアとは

基盤教育科目の中核として、将来の社会に求められる基礎力の養成と地域社会や情報技術の理解のための全学必修科目群をフレッシュマンコアと呼びます。

フレッシュマンコアは、技法知、学問知、実践知の修得に向けた基礎トレーニングの場です。ここではまず専門科目を主体的に学ぶための礎を築きます。また、少人数のグループで課題に取り組み、仲間とともに学びながら、多様な意見から集団で答えを導き出す能力を養っていきます。さらに、地域や社会の一員として自らの果たすべき役割についても考えを深めていきます。これら一連の営みを通じて、一人ひとりの生涯の学びの基盤を確かなものにしていきます。

〈 フレッシュマンコア 〉

「明日の姿を見通す力」を身につける宮城大学の基盤教育スタンダード



人間力＋学び続ける力



明日の姿を見通す力

フレッシュマンコアとして全学必修科目に指定されている科目は、以下の通りです。

- ①スタートアップセミナーⅠ …… ▶宮城大学での学びの基礎を確立するための科目です。前半は、大学での学びに必要な知見やスキルを講義形式で学びます。後半は、課題解決に向けた主体性・協働性の涵養にも配慮し、少人数でのグループワークが中心となります。
- ②スタートアップセミナーⅡ …… ▶前半は、在学中に必要とされるだけでなく、卒業後にも利用可能な、汎用性の高い知見・態度の涵養とスキルの修得を目指します。後半は、キャリア・デザインの授業を通じて、自分自身の現在・過去・未来を考えていきます。
- ③地域フィールドワーク …… ▶地域を歩き、自らのミッションを問う。地域に貢献できる人材の持つべき素養として、地域（東北、宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら、地域の多様な人々や地域が抱える課題に目を向け、自らの「果たすべき役割」を考えていきます。
- ④コンピューターリテラシー …… ▶リテラシーとは元々は読み書きの能力を指します。この科目では、コンピューターとネットワークをまさしく文房具として活用するための技法を習得します。道具を上手に使えることは生産性に直結します。
- ⑤情報化社会と技術 …… ▶学問としての計算機科学への導入科目です。すなわち、情報の理論、コンピューターの仕組み、プログラムと通信の原理を学びます。現代社会を支える情報システムの根幹を成す理論の枠組みを知ることは、それらをうまく利用するためにも極めて重要です。
- ⑥基礎統計学Ⅰ …… ▶AIやビッグデータ時代といわれる現代社会において、統計学に裏打ちされた数量科学的検証の重要性が高まっています。その応用は、あらゆる分野と幅広く、様々な性質のデータに対して統計解析を適切に実行し、妥当な解釈を得るには、正しい知識と解析技術が不可欠です。本講義では、グラフや表による標本データの整理・表現法を身につけ、記述統計を基礎とした理論や解析技術を学びます。
- ⑦必修英語科目（以下の6つの英語科目も全学必修です）
English GatewayⅠ、English Self-ExpressionⅠ
English GatewayⅡ、English Self-ExpressionⅡ
English for Academic Purposes、English Expedition
…………… ▶世界中の社会や技術発展について書かれたテキストやオンライン教材を使用し、読解の能力を強化させる一方、スピーキングやライティングを通し、異なる表現方法を学びます。また、英語の教材を通して、様々な視点や異文化理解を身につけることを目指します。

2 基盤教育における9つの科目分野

基盤教育では、以下の9つの科目分野に、63科目を配しています。そのなかでも「*」の付いている科目は全学必修科目となります。この他にも、学群ごとの必修科目が存在します。

(1) 導入科目：宮城大学の基盤教育を特徴づける科目分野

スタートアップセミナーⅠ*	スタートアップセミナーⅡ*	地域フィールドワーク*
---------------	---------------	-------------

(2) 情報統計：AⅠ時代・情報化社会の基本スキルを修得するための科目分野

コンピューターリテラシー*	情報化社会と技術*	基礎統計学Ⅰ*
基礎統計学Ⅱ ^(a)		

(a)「基礎統計学Ⅱ」は、事業構想学群および食産業学群の必修科目です。

(3) 芸術・人文学：豊かな精神性の涵養に資する科目分野

現代メディアカルチャー論	美術	音楽
美術演習	音楽演習	文学
世界の歴史と文化	日本の歴史と文化	東北の歴史と文化
人と宗教		

(4) 人間科学：心身の健康と健やかな生活環境の構築に資する科目分野

心理学	健康科学	スポーツ実技
体を動かす楽しみ	スポーツ科学	福祉入門
食と社会 ^(b)		

(b)「食と社会」は、食産業学群の必修科目です。

(5) 社会科学：社会の理解に資する科目分野

憲法	政治学概論	国際関係論
社会と経済	現代東北社会論	社会の諸相
社会と哲学	人口学概論	文化人類学概論

(6) グローバルコミュニケーション：国際感覚の育成に資する科目分野

English GatewayⅠ*	English Self-ExpressionⅠ*	English GatewayⅡ*
English Self-ExpressionⅡ*	English for Academic Purposes*	English Expedition*
University English	Academic Writing	Academic Reading
中国語Ⅰ	中国語Ⅱ	韓国語Ⅰ
韓国語Ⅱ	スペイン語Ⅰ／SpanishⅠ	スペイン語Ⅱ／SpanishⅡ
国際日本学／Japanology	グローバル・ビジネス／Global Business	

(7) 自然科学：自然の理解に資する科目分野

数学概論	数理科学	物理概論
化学概論 ^(c)	生物概論 ^(d)	生命科学
環境学概論	地球と宇宙	

(c)「化学概論」は、食産業学群の必修科目です。

(d)「生物概論」は、看護学群および食産業学群の必修科目です。

(8) 実践基礎：実践的な専門教育に向けての導きの糸となる科目分野

全学自由ゼミ ^(e)	コミュニティ・プランナー概論及び演習	アントレプレナー基礎
-----------------------	--------------------	------------

(e)「全学自由ゼミ」は、看護学群では開講しません。当該科目の履修を希望する看護学群の学生は、他学群・他学類履修制度により履修してください。

(9) 全学共通科目：国内外の大学や企業と連携した研修など、全学に共通する学びを提供する科目分野

学外研修	グローバルインターンシップ	
------	---------------	--

3 留学生対象科目

外国人留学生の皆さんは、下表の基盤教育科目が必修となります。
また、記載されている英語科目(*)の中から4年間で2単位(2科目)以上を履修し修得する必要があります。

科目	看護学群	事業構想学群	食産業学群
スタートアップセミナーⅠ	○	○	○
スタートアップセミナーⅡ	○	○	○
地域フィールドワーク	○	○	○
コンピューターリテラシー	○	○	○
情報化社会と技術	○	○	○
基礎統計学Ⅰ	○	○	○
基礎統計学Ⅱ	選択	○	○
* English GatewayⅠ	6科目から 2単位(2科目) 以上選択	6科目から 2単位(2科目) 以上選択	6科目から 2単位(2科目) 以上選択
* English Self-ExpressionⅠ			
* English GatewayⅡ			
* English Self-ExpressionⅡ			
* English for Academic Purposes			
* English Expedition			
化学概論	選択	選択	○
生物概論	○	選択	○
食と社会	選択	選択	○
日本語Ⅰ	○	○	○
日本語Ⅱ	○	○	○
日本語Ⅲ	○	○	○
日本事情Ⅰ	○	○	○
日本事情Ⅱ	○	○	○

4 教育課程の一覧

基盤教育を含む教育課程の一覧は、「Ⅵ学群」の章の科目配当表に記載しています。学群・学類毎に開講科目、必修・選択、分野毎の卒業要件単位が異なりますので、確認のうえ計画的に履修してください。

I	
宮城大学カリキュラムの全体像	
II	
総論	
III	
履修登録	
IV	
全学共通科目ほか	
V	
基盤教育	

VI. 看護学群

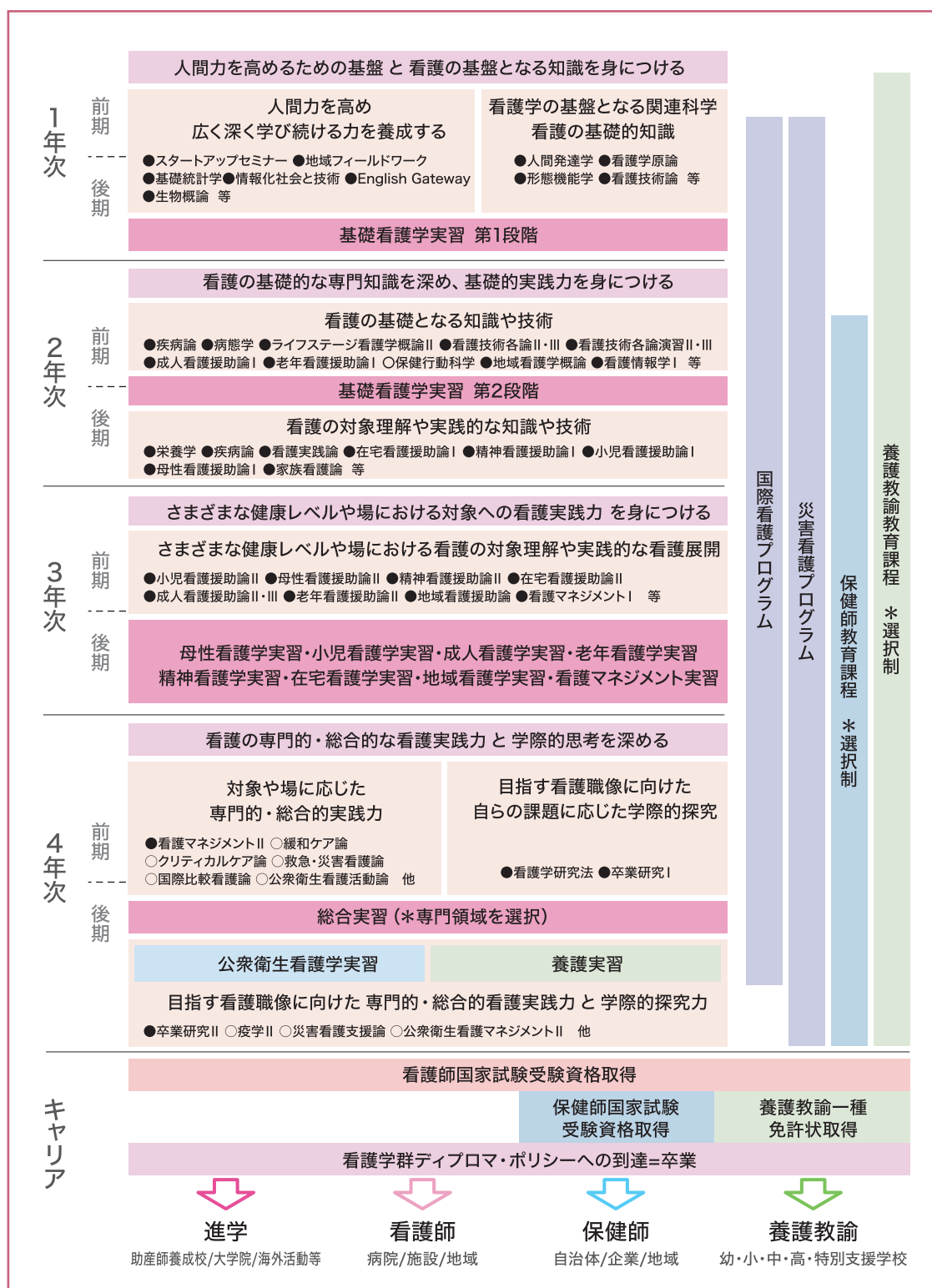
1 看護学群看護学類について

(1) 看護学群での学びとキャリア

ヒューマンケアを中核とした創造的看護を展開し、地域社会及び多分野・異文化の人々と協働して学際的及び国際的に広く活躍できる看護職に向けて学修します。そのためには、生命の尊厳を基盤とする“豊かな人間力”と“高い倫理観”を備えて、科学的思考力とマネジメント能力を身につける必要があります。人間力を高めるために「フレッシュマンコア」科目を中心とする基盤教育科目に加えて、1年次から、講義、演習、実習科目を関連づけ、積み上げながら、看護実践力を獲得できるよう主体的に学習します。

また、将来目指す看護職像に向けて、看護師課程では、本学独自の「災害看護プログラム」や「国際看護プログラム」を選択できます。さらに、保健師教育課程、養護教諭教育課程を選択し、学修することができます。

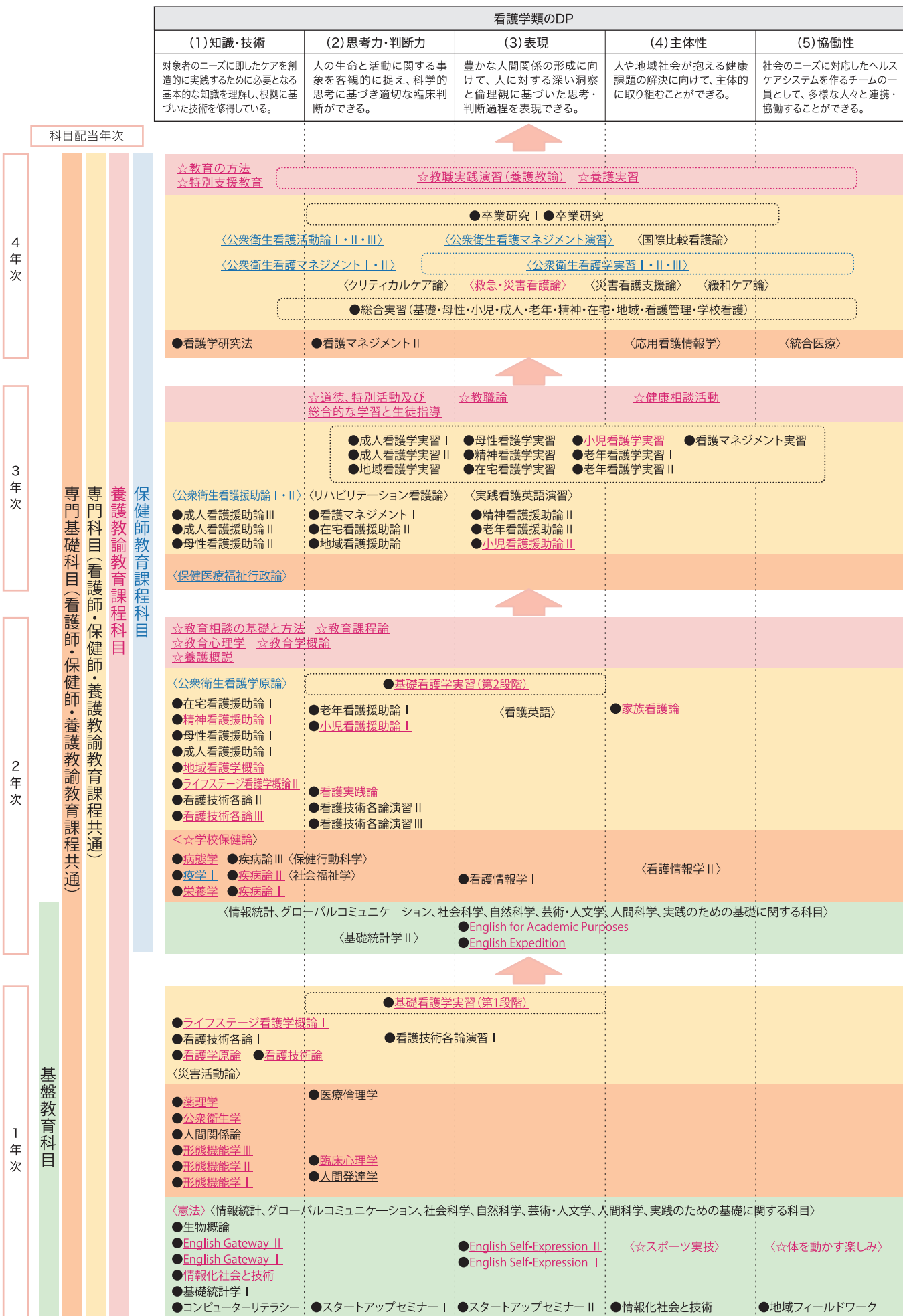
看護学群での学び



(2) 看護学類の教育目標

	ディプロマ・ポリシー (DP)	カリキュラム・ポリシー (CP)
学類共通	看護学群では、以下の要件を満たした学生に学士（看護学）の学位を授与する。	看護学群看護学類では、看護学の基盤となる知識・技術を身につける専門基礎科目と看護学の専門性を深め、広げる専門科目を学年進行に沿って体系的に配置する。看護専門職としての共通基盤を形成する看護師教育課程と共に、看護学の専門性を広げる保健師教育課程ならびに養護教諭教育課程を置く。
1 知識・技術	対象者のニーズに即したケアを創造的に実践するために必要となる基本的な知識を理解し、根拠に基づいた技術を修得している。	看護学の関連科目や、看護の各専門分野における知識と技術を身につける科目を配置し、実習室での演習や見学実習等を取り入れた実践的な教育を行う。 専門基礎科目として、看護の対象者である人の心身の発達過程や人体の構造・機能について学ぶ科目、人々の健康を守る上で必要となるさまざまな病気の成り立ちや症状・病変の特徴と治療や回復過程および、疾病の予防と健康の維持・増進について学ぶ科目を置く。 専門科目として、看護学の基礎となる知識と概念、看護が行われる場や看護を提供するシステム、看護に有用なICTの活用等について学ぶ科目や、対象者のニーズを充足する上で必要となる基本的な援助技術を身につける科目、さらにさまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考に基づく判断と根拠に基づいた援助技術を身につける科目を置く。
2 思考力・判断力	人の生命と活動に関する事象を客観的に捉え、科学的思考に基づき適切な臨床判断ができる。	講義科目と演習科目ならびに実習科目を連動させ、人々の健康に関わる課題を、科学的思考過程を経て明確化し、適切な臨床判断に基づいた課題解決につなげる教育を行う。 専門基礎科目として、医療における倫理的思考、情報の収集や分析、伝達等に関係する基本的な性質や特徴を理解し、問題解決手法の基礎等について学ぶ科目を置く。 専門科目として、さまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考による判断と根拠に基づいた技術を通して、ニーズに即したケアを展開する基礎的能力を身につける科目を置く。
3 表現	豊かな人間関係の形成に向けて、人に対する深い洞察と倫理観に基づいた思考・判断過程を表現できる。	グループ学習を取り入れ、ディスカッションや実習室での演習、実演、実習等を通して人との関係づくりについて体験的に学び合う教育を行う。 専門基礎科目として、看護の対象となる人と良好な関係性を築きながら看護を実践する上で必要な倫理観や洞察力、コミュニケーション能力等を養う科目を置く。 専門科目として、個人や家族、集団と関わり、援助を実践する過程において必要となる基本的なアプローチの方法や、振り返りを通して自らの援助技術を高める方法等について学ぶ科目を置く。
4 主体性	人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	看護専門職を目指す上で基盤となる科目とともに、幅広い視野から看護を学ぶ科目を配置する。学修過程を振り返る機会を通して、看護専門職として目指す方向性の選択を支援する教育を行う。最終年次においては、個々の学生が関心を持った看護専門領域や課題を選択して実習や研究に取り組み、看護専門職として主体的に学び続けるための基本的態度を養う教育を行う。 専門科目として、人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けた看護を主体的に展開する総合的実践力を身につけるための科目や、看護現象を科学的に分析し、看護実践の向上を目指す研究的態度を身につけるための科目を置く。
5 協働性	社会のニーズに対応したヘルスケアシステムを作るチームの一員として、多様な人々と連携・協働することができる。	講義により基礎的な知識や態度を身につけ、演習や実習での多様な人々とのコミュニケーションや関わりを通して、看護専門職として、人や地域社会が抱える健康課題を解決するための基本的な態度を養う教育を行う。 専門科目として、地域のケアシステム、関係職種による連携・協働、社会資源の活用を通して、地域療養を支援する実践能力を身につける科目や、質の高い看護を組織的に提供するためのマネジメントやチーム医療における看護専門職の役割、医療者間の協働とコミュニケーションについて学ぶ科目を置く。

(3) 看護学類のカリキュラムマップ

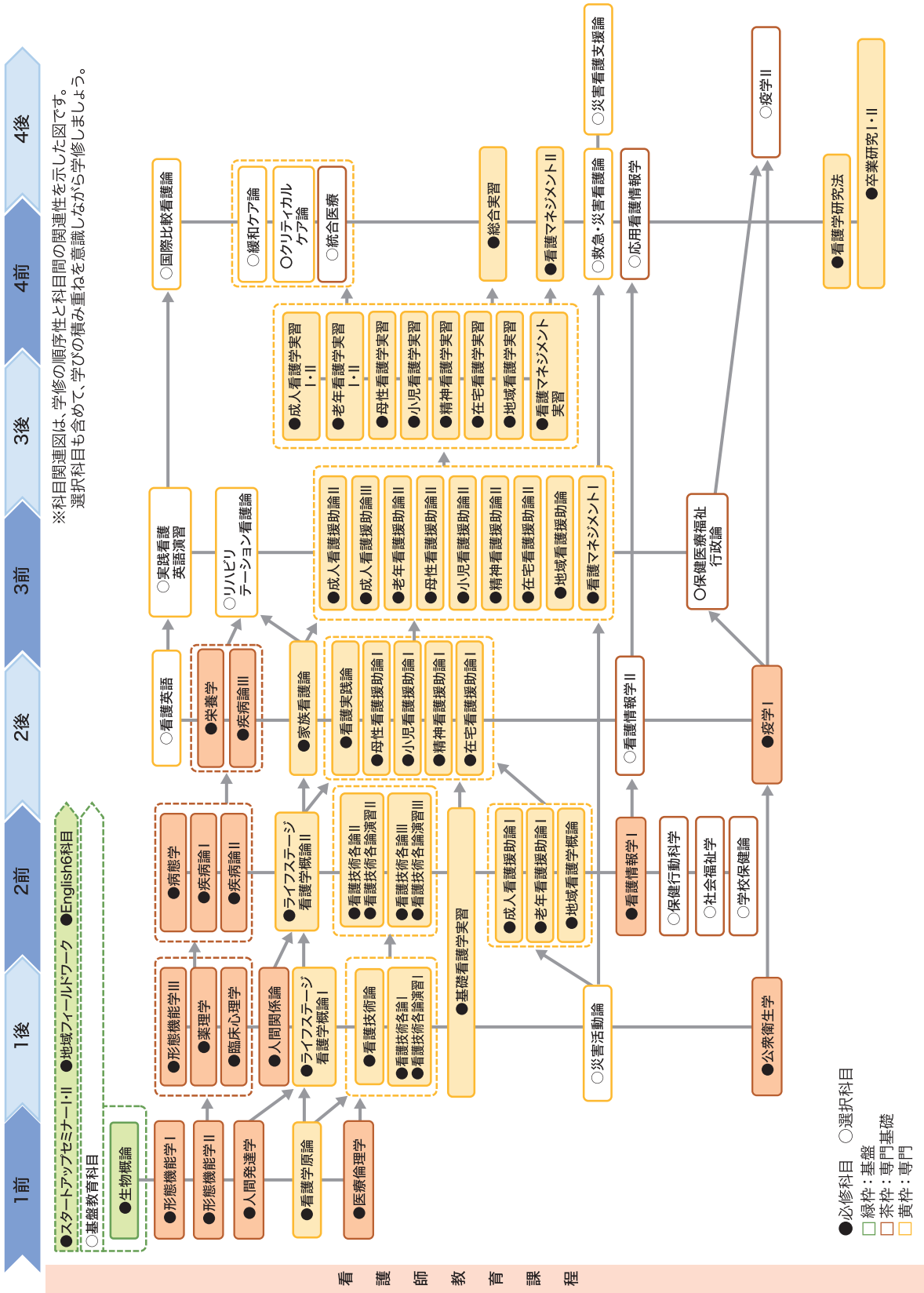


◇選択科目 保健師:資格取得に必修 養護教諭:資格取得に必修 ☆養護教諭一種免許に必要な科目

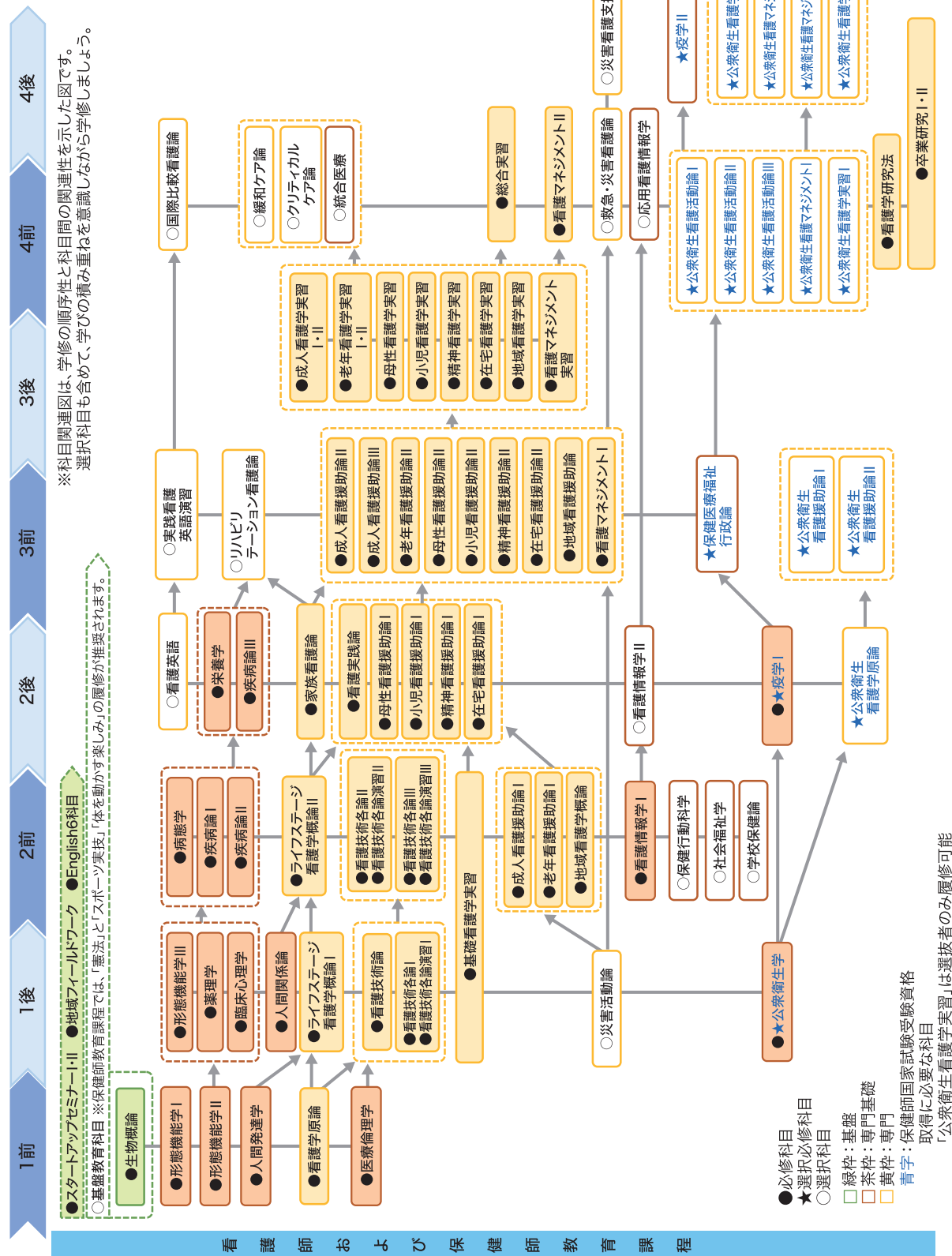
(4) 看護学類の科目関連図

科目関連図は、学修の順序性と科目間の関連性を示した図です。矢印が学修の順序性を示し、縦の線が科目間の関連を示します。看護学類の専門基礎科目と専門科目は、すべて関連しています。各自が選択する教育課程に応じて、学修目的に合わせて選択科目を履修します。それぞれの開講時期に学修する科目を関連づけて、学びの積み重ねを意識しながら学修しましょう。

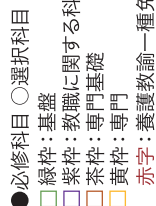
①看護学類科目関連図（看護師教育課程）



②看護学科目関連図（保健師教育課程）



※科目関連図は、学修の順序性と科目間の関連性を示した図です。
選択科目も含めて、学びの積み重ねを意識しながら学修しましょう。



2 看護学類の科目配当

(1) 看護師教育課程科目配当表

科目区分			1年次						2年次					
			前期			後期			前期			後期		
			履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位
基盤教育科目	科導入	必修	●※: スタートアップセミナーⅠ ●※: 地域フィールドワーク	2 1	●※: スタートアップセミナーⅡ	2								
	統計情報	選択・一部必修	●※: コンピューターリテラシー	2	●※: 情報化社会と技術 ●※: 基礎統計Ⅰ	2 2	基礎統計Ⅱ	2		留学生は2単位以上 選択必修				
	グローバル コミュニケーション		●※: English GatewayⅠ ●※: English Self-ExpressionⅠ	1 1	●※: English GatewayⅡ ●※: English Self-ExpressionⅡ	1 1	●※: English for Academic Purposes ●※: English Expedition	1 1						
			国: 中国語Ⅰ 国: 韓国語Ⅰ 国: スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1 1 1	中国語Ⅱ 韓国語Ⅱ スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ 国際日本学/Japanology グローバル・ビジネス	1 1 1 2 2			国: University English 国: Academic Writing 国: Academic Reading		1 1 1			
			国: 国際関係論 社会と哲学 人口学概論 文化人類学概論	2 2 1 2	憲法 政治学概論 社会と経済 現代東北社会論 社会の諸相	2 2 2 2 2								
	社会科学		生命科学 数学概論 物理概論 化学概論 ●: 生物概論	2 2 2 2 2	数理科学 環境学概論 地球と宇宙	2 2 2 2								
			芸術・人文学	現代メディアカルチャー論 音楽 美術演習 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 東北の歴史と文化 人と宗教	2 2 1 2 2 2 2	美術 音楽演習 文学	2 1 2							
				人間科学	心理学 健康科学 スポーツ科学 スポーツ実技 食と社会	2 2 1 1 1	体を動かす楽しみ 福祉入門	1 1						
	基礎実践				アントレプレナー基礎(集中)	2			コミュニティ・プランナー概論及び演習	2				
	留学生		日本語Ⅰ 日本事情Ⅰ		1 2	日本語Ⅱ 日本事情Ⅱ	1 2	日本語Ⅲ	1	日本語Ⅳ	1			
			全学共通 科目	グローバルインターシップ(集中) 学外研修(集中)	2 2									
	専門教育科目		専門基礎科目	必修	●: 人間発達学 ●: 医療倫理学 ●: 形態機能学Ⅰ ●: 形態機能学Ⅱ	2 2 1 1	●: 臨床心理学 ●: 人間関係論 ●: 形態機能学Ⅲ ●: 薬理学 ●: 公衆衛生学	2 2 1 2 2	●: 病態学 ●: 疾病論Ⅰ ●: 疾病論Ⅱ ●: 看護情報学Ⅰ	2 1 1 1	●: 栄養学 ●: 疫学Ⅰ ●: 疾病論Ⅲ	2 2 1		
				選択	各自の学修目的・目標に 合わせて履修			保健行動科学 社会福祉学 学校保健論	2 2 2	看護情報学Ⅱ	1			
			専門科目	必修	●: 看護学原論	2	●: ライフステージ看護学概論Ⅰ ●: 看護技術論 ●: 看護技術各論Ⅰ ●: 看護技術各論演習Ⅰ ●: 基礎看護学実習	2 2 1 1 1	●: ライフステージ看護学概論Ⅱ ●: 看護技術各論Ⅱ ●: 看護技術各論Ⅲ ●: 看護技術各論演習Ⅱ 看護技術各論演習Ⅲ ●: 地域看護学概論 ●: 老年看護援助論Ⅰ ●: 成人看護援助論Ⅰ	2 1 1 1 1 3 2 2 2	●: 看護実践論 ●: 家族看護論 ●: 母性看護援助論Ⅰ ●: 小児看護援助論Ⅰ ●: 精神看護援助論Ⅰ ●: 在宅看護援助論Ⅰ	1 2 2 2 2 2		
				選択	深めたい専門知識・ 技術に合わせて履修		災: 災害活動論	2		国: 看護英語 公衆衛生看護学原論	1 2			
				養護教諭教育課程 (卒業要件外)					教育学概論 教育心理学	2 2	教育課程論 教育相談の基礎と方法 養護概説	2 2 2		
履修 条件	必修単位数	基盤教育科目: 17単位 専門教育科目: 23単位					基盤教育科目: 2単位 専門教育科目: 36単位							
	選択必修単位数	基盤教育科目: 6単位												
	履修単位数の上限	49単位					49単位							

【凡例】●:必修科目 災:災害看護プログラム科目 国:国際看護プログラム科目 ※:フレッシュマンコア科目

3年次						4年次						卒業要件			
前期			後期			前期			後期						
	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位			
													5単位修得	必修を含めて25単位以上修得	
													6単位以上修得		
													6単位修得		
													必修科目を含めて8単位以上修得		
														必修を含めて128単位以上修得	
													留学生のみ履修可能		
													全学共通科目は卒業要件単位に含まない		
													必修科目を含めて25単位以上修得		
		保健医療福祉行政論	2					応用看護情報学 統合医療	1 2		疫学Ⅱ	2			
		● 地域看護援助論 ● 母性看護援助論Ⅱ ● 小児看護援助論Ⅱ ● 精神看護援助論Ⅱ ● 在宅看護援助論Ⅱ ● 老年看護援助論Ⅱ ● 成人看護援助論Ⅱ ● 成人看護援助論Ⅲ ● 災害看護マネジメントⅠ	2 2 2 2 2 2 2 2 2		● 地域看護学実習 ● 母性看護学実習 ● 小児看護学実習 ● 精神看護学実習 ● 在宅看護学実習 ● 老年看護学実習Ⅰ ● 老年看護学実習Ⅱ ● 成人看護学実習Ⅰ ● 成人看護学実習Ⅱ ● 看護マネジメント実習	1 2 2 2 2 1 2 2 2 2		● 看護学研究法 ● 総合実習 ● 卒業研究Ⅰ ● 看護マネジメントⅡ	2 2 1 2		● 卒業研究Ⅱ	1		必修科目を含めて78単位以上修得	
		国 実践看護英語演習 リハビリテーション看護論 公衆衛生看護援助論Ⅰ 公衆衛生看護援助論Ⅱ	1 2 2 2				災 救急・災害看護論 国 国際比較看護論 緩和ケア論 クリティカルケア論 公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ 公衆衛生看護活動論Ⅲ 公衆衛生看護マネジメントⅠ	2 2 1 1 2 2 2 2		災 災害看護支援論 公衆衛生看護マネジメントⅡ 公衆衛生看護マネジメント演習	2 2 1		(※公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは保健師教育課程選択者のみ履修可)		
		教職論 健康相談活動 道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	2 2 2				教育の方法 特別支援教育	2 1		(※養護実習と教職実践演習(養護教諭)は養護教諭教育課程選択者のみ履修可)					
専門教育科目：36単位						専門教育科目：8単位						122単位			
												6単位以上			
49単位						49単位						必要単位数：128単位以上			

2 看護学類の科目配当

(2) 保健師教育課程科目配当表

科目区分			1年次						2年次					
			前期			後期			前期			後期		
			履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位
基盤教育科目	科導入	必修	●※	スタートアップセミナーⅠ	2	●※	スタートアップセミナーⅡ	2						
			●※	地域フィールドワーク	1									
	統計情報	選択・一部必修	●※	コンピューターリテラシー	2	●※	情報化社会と技術	2		基礎統計学Ⅱ	2			
	グローバルコミュニケーション		●国※	English GatewayⅠ	1	●国※	English GatewayⅡ	1	●国※	English for Academic Purposes	1	留学生は2単位以上 選択必修		
			●国※	English Self-ExpressionⅠ	1	●国※	English Self-ExpressionⅡ	1	●国※	English Expedition	1			
	社会科学		国	中国語Ⅰ	1		中国語Ⅱ	1				国	University English	1
			国	韓国語Ⅰ	1		韓国語Ⅱ	1				国	Academic Writing	1
			国	スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1		スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	1				国	Academic Reading	1
							国際日本学/Japanology	2						
						グローバル・ビジネス	2							
	自然科学		国	国際関係論	2		憲法	2						
				社会と哲学	2		政治学概論	2						
		人口学概論	1		社会と経済	2								
		文化人類学概論	2		現代東北社会論	2								
芸術・人文学					社会の諸相	2								
	人間科学		生命科学	2		数理科学	2							
			数学概論	2		環境学概論	2							
			物理概論	2		地球と宇宙	2							
		化学概論	2											
専門教育科目	専門基礎科目	必修	●	生物概論	2									
				現代メディアカルチャー論	2		美術	2						
				音楽	2		音楽演習	1						
	専門基礎科目	必修		美術演習	1		文学	2						
				日本の歴史と文化	2									
				世界の歴史と文化	2									
	専門基礎科目	必修		東北の歴史と文化	2									
				人と宗教	2									
				心理学	2		体を動かす楽しみ	1						
	専門基礎科目	必修		健康科学	2		福祉入門	1						
				スポーツ科学	1									
				スポーツ実技	1									
専門基礎科目	必修		食と社会	1										
			アントレプレナー基礎(集中)	2				コミュニティ・プランナー概論及び演習	2					
専門基礎科目	必修		日本語Ⅰ	1		日本語Ⅱ	1		日本語Ⅲ	1		日本語Ⅳ	1	
			日本語Ⅱ	2		日本語Ⅲ	2							
			日本語Ⅲ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
専門基礎科目	必修		日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										
			日本語Ⅳ	2										

【凡例】●:必修科目 災:災害看護プログラム科目 国:国際看護プログラム科目 ※:フレッシュマンコア科目

[illegible]

(3) 養護教諭教育課程科目配当表

科目区分			1年次						2年次					
			前期			後期			前期			後期		
			履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位
基盤教育科目	科導入	必修	●※: スタートアップセミナーⅠ ●※: 地域フィールドワーク	2 1	●※: スタートアップセミナーⅡ	2								
	統情計報	選択・一部必修	●※: コンピューターリテラシー	2	●※: 情報化社会と技術 ●※: 基礎統計学Ⅰ	2 2			基礎統計学Ⅱ	2				
	コミュニケーション		●※: English GatewayⅠ ●※: English Self-ExpressionⅠ	1 1	●※: English GatewayⅡ ●※: English Self-ExpressionⅡ	1 1	●※: English for Academic Purposes ●※: English Expedition	1 1						
			国: 中国語Ⅰ 国: 韓国語Ⅰ 国: スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1 1 1	国: 中国語Ⅱ 国: 韓国語Ⅱ 国: スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ 国: 国際日本学/Japanology 国: グローバル・ビジネス	1 1 2 2 2			国: University English 国: Academic Writing 国: Academic Reading	1 1 1				
			社会科学	国: 国際関係論 社会と哲学 人口学概論 文化人類学概論	2 2 1 2	●※: 憲法 政治学概論 社会と経済 現代東北社会論 社会の諸相	2 2 2 2 2							
			自然科学	生命科学 数学概論 物理概論 化学概論 ●: 生物概論	2 2 2 2 2	数理科学 環境学概論 地球と宇宙	2 2 2							
	芸術・人文学		現代メディアカルチャー論 音楽 美術演習 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 東北の歴史と文化 人と宗教	2 2 1 2 2 2 2	美術 音楽演習 文学	2 1 2								
			人間科学	心理学 健康科学 スポーツ科学 ●※: スポーツ実技 食と社会	2 2 1 1 1	●※: 体を動かす楽しみ 福祉入門	1 1							
	基礎基礎			アントレプレナー基礎(集中)	2			コミュニティ・プランナー概論及び演習	2					
	留学生		日本語Ⅰ 日本事情Ⅰ	1 2	日本語Ⅱ 日本事情Ⅱ	1 2	日本語Ⅲ	1	日本語Ⅳ	1				
全学共通科目			グローバルインターシップ(集中) 学外研修(集中)	2 2										
専門教育科目	専門基礎科目	必修	●: 人間発達学 ●: 医療倫理学 ●※: 形態機能学Ⅰ ●※: 形態機能学Ⅱ	2 2 1 1	●※: 臨床心理学 ●: 人間関係論 ●※: 形態機能学Ⅲ ●※: 薬理学 ●※: 公衆衛生学	2 2 1 2 2	●※: 病態学 ●※: 疾病論Ⅰ ●※: 疾病論Ⅱ ●: 看護情報学Ⅰ	2 1 1 1	●※: 栄養学 ●※: 疫学Ⅰ ●: 疾病論Ⅲ	2 2 1				
		必選択				●※: 学校保健論	2							
		選択	各自の学修目的・目標に合わせて履修			保健行動科学 社会福祉学	2 2	看護情報学Ⅱ	1					
	専門科目	必修	●※: 看護学原論	2	●※: ライフステージ看護学概論Ⅰ ●※: 看護技術論 ●: 看護技術各論Ⅰ ●: 看護技術各論演習Ⅰ	2 2 1 1	●※: ライフステージ看護学概論Ⅱ ●: 看護技術各論Ⅱ ●※: 看護技術各論Ⅲ ●: 看護技術各論演習Ⅱ ●: 看護技術各論演習Ⅲ	2 1 1 1 1	●※: 看護実践論 ●※: 家族看護論 ●: 母性看護援助論Ⅰ ●※: 小児看護援助論Ⅰ ●※: 精神看護援助論Ⅰ ●: 在宅看護援助論Ⅰ	1 2 2 2 2 2				
			必選択											
			選択	深めたい専門知識・技術に合わせて履修	災: 災害活動論	2			国: 看護英語 公衆衛生看護学原論	1 2				
		養護教諭教育課程 (卒業要件外)						●※: 教育学概論 ●※: 教育心理学	2 2	●※: 教育課程論 ●※: 教育相談の基礎と方法 ●※: 養護概説	2 2 2			
履修条件	必修単位数	基盤教育科目: 17単位 専門教育科目: 23単位					基盤教育科目: 2単位 専門教育科目: 36単位 卒業要件外: 10単位							
	選択必修単位数	基盤教育科目: 6単位(「憲法」・「スポーツ実技」・「からだを動かす楽しみ」含む)												
	履修単位数の上限	49単位					専門基礎科目: 2単位							

【凡例】●：必修科目 災：災害看護プログラム科目 国：国際看護プログラム科目 ※：フレッシュマンコア科目

3年次						4年次						卒業要件			
前期			後期			前期			後期						
	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位			
													5単位修得	必修を含めて25単位以上修得	
													6単位以上修得		
													6単位修得		
													必修科目を含めて8単位以上修得		
													留学生のみ履修可能	必修を含めて128単位以上修得	
													全学共通科目は卒業要件単位に含まない		
													必修科目を含めて25単位以上修得		
		保健医療福祉行政論	2					応用看護情報学 統合医療	1 2		疫学Ⅱ	2			
		●地域看護援助論 ●母性看護援助論Ⅱ ●養小児看護援助論Ⅱ ●精神看護援助論Ⅱ ●在宅看護援助論Ⅱ ●老年看護援助論Ⅱ ●成人看護援助論Ⅱ ●成人看護援助論Ⅲ ●災看護マネジメントⅠ	2 2 2 2 2 2 2 2 2		●地域看護学実習 ●母性看護学実習 ●養小児看護学実習 ●精神看護学実習 ●在宅看護学実習 ●老年看護学実習Ⅰ ●老年看護学実習Ⅱ ●成人看護学実習Ⅰ ●成人看護学実習Ⅱ ●看護マネジメント実習	1 2 2 2 2 1 2 2 2 2		●看護学研究法 ●総合実習 ●卒業研究Ⅰ ●看護マネジメントⅡ	2 2 1 2		●卒業研究Ⅱ	1		必修科目を含めて78単位以上修得	
							●災救急・災害看護論	2 2							
		国実践看護英語演習 リハビリテーション看護論 公衆衛生看護援助論Ⅰ 公衆衛生看護援助論Ⅱ	1 2 2 2				国国際比較看護論 緩和ケア論 クリティカルケア論 公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ 公衆衛生看護活動論Ⅲ 公衆衛生看護マネジメントⅠ	2 1 1 2 2 2 2		災災害看護支援論 公衆衛生看護マネジメントⅡ 公衆衛生看護マネジメント演習	2 2 1		(※公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは保健師教育課程選択者のみ履修可)		
		●養教職論 ●養健康相談活動 ●養道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	2 2 2				●養教育の方法 ●養特別支援教育	2 1		●養養護実習 ●養教職実践演習(養護教諭)	5 2		26単位修得 (卒業要件外)		
専門教育科目：36単位 卒業要件外：6単位						専門教育科目：8単位 卒業要件外：10単位						148単位			
						専門科目：2単位						6単位以上			
												4単位			
49単位						49単位						必要単位数：158単位以上			

時間割をもとに履修したい科目・時期を各自決定

留學生は日本語Ⅳ以外必修

3 卒業に必要な単位数及び卒業要件

卒業するためには4年以上在学し、最低限、次の表に示す所定の単位を修得しなければなりません。

区分		配当単位数	必修単位数	選択必修	選択	必要単位数	
基盤教育 科目	導入科目	5	5	0	0	5単位	25 単位 以上
	実践基礎	4	0	0	必修 以外に 6以上を 選択	指定しない	
	情報統計	8	6	0		6単位	
	グローバル コミュニケーション	19	6	0		6単位 (留学生:2単位以上 選択必修)	
	社会科学	17	0	0		指定しない	
	自然科学	16	2	0		2単位	
	芸術・人文学	18	0	0		指定しない	
	人間科学	9	0	0		指定しない	
	留学生対象	留学生のみ 8	留学生のみ 7	0	0	留学生のみ 7単位以上	
	全学共通科目	4	0	0	0	(卒業要件外)	
専門教育 科目	専門基礎科目	43	25	0	0	25単位以上	
	専門科目	102	78	0	0	78単位以上	
養護教諭教育課程(卒業要件外)		26	0	26	0	(卒業要件外)	
合計		279	卒業要件単位数			128単位以上	

4—教育課程の特色

看護学類では、全学生が看護師教育課程を学修します。加えて、保健師教育課程、養護教諭教育課程を選択して学修することができます。また、看護の専門的な学びを深めるプログラムとして、災害看護プログラムと国際看護プログラムを設置し、学生の主体的な学びを通して、さまざまな場で活躍できる看護職の育成を目指しています。

(1) 基盤教育科目

詳細は履修ガイドV基盤教育の章を確認してください。

(2) 専門教育科目

①専門基礎科目(25単位必修)

専門基礎科目は、看護の基礎になる科目群です。

人を深く理解し、洞察できるように必要な科目、健康について多角的に理解するために必要な科目です。

②専門科目(78単位必修)

看護学を専門的に学修する科目群です。

発達段階の特徴や看護活動の場の特徴などによる看護専門領域(基礎看護学、小児看護学、母性看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、地域看護学、在宅看護学、看護マネジメント、学校看護)に関する科目です。

5—看護師教育課程

看護師教育課程は卒業に必要な必修科目と選択科目で構成されています。また、看護師国家試験受験資格に必要な教育課程です。看護学類科目関連図(看護師教育課程)p40、看護師教育課程配当表p44-p45を参照ください。

1年次では、基盤教育科目、専門基礎科目とあわせて、看護とは何かを学ぶ「看護学原論」、人の発達の特徴を捉えた看護を学ぶ「ライフステージ看護学概論」、看護学の基礎的知識と技術を修得する「看護技術論」などを学修します。2～3年次では、各看護専門領域に関する科目について学修します。また、3年次後期では、臨地実習において看護実践力を養います。4年次では、学んだ看護学を応用する能力および研究的視点を養うため、総合実習や卒業研究を配置しています。

6—保健師教育課程

保健師教育課程は、保健師国家試験受験資格に必要な教育課程です。また、保健師の免許を取得後、申請により第一種衛生管理者、養護教諭二種免許状が取得できます。養護教諭二種免許状の申請を希望する方は、「日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機の操作」4科目、各2単位の修得が必要です(教育職員免許法施行規則第66条の6)。外国語コミュニケーションと情報機の操作については必修科目に含まれていますので、それ以外に1年次の基盤教育科目「憲法」「スポーツ実技」「体を動かす楽しみ」を修得することが必要です。

看護学類科目関連図(保健師教育課程)p41、保健師教育課程配当表p46-p47を参照ください。

4年次の公衆衛生看護学実習履修にあたっては、3年次後期にレポート及び看護学実習における学習状況をふまえた選抜を行います。

7—養護教諭教育課程

養護教諭教育課程は、養護教諭一種免許状取得に必要な教育課程です。卒業要件に看護師教育課程の科目履修が必要ですので、看護師教育課程の科目に加えて、養護教諭教育課程の科目を履修する必要があります。看護学類科目関連図(養護教育課程)p42、養護教育課程配当表p48-p49を参照ください。

4年次の養護実習履修にあたっては、3年次後期に養護教諭一種免許に必要な科目の履修状況、養護実習の履修意思について、面接を行います。

8 災害看護プログラム

災害看護プログラムは、災害直後をはじめ災害サイクル各期において支援ができる看護の基礎的知識と技術を備え、将来、医療・行政・学校等の各分野において災害看護の一端を担える能力を養うプログラムです。国家資格ではありませんが、4年間にわたり災害看護に関する学修や経験を重ねたポートフォリオを提出した者に災害看護プログラム修了証を授与します。

災害看護プログラム修了に必要な科目

学年	学期	災害看護プログラム構成科目
1年次	後期	災害活動論
3年次	前期	看護マネジメントⅠ
4年次	前期	救急・災害看護論
	後期	災害看護支援論

※4年間にわたる災害看護に関する学修や経験を重ねたポートフォリオ作成のこと。
※卒業研究のテーマとして取り組むことも推奨する。

9 国際看護プログラム

国際看護プログラムは、国際協力の現場や国内における看護の場で、異文化の人々を理解し、看護を実践し、関係者と協働するための基盤となる能力の修得を支援するプログラムです。国家資格ではありませんが、4年間にわたり国際看護に関する学修をすべて修得すると国際看護プログラム修了証を授与します。

3年次の実践看護英語演習の履修にあたっては、2年次後期に、必要な科目の履修状況、選抜要件、実践看護英語演習履修の意思等を、面接および書面にて確認し、実践看護英語演習履修候補者を選抜します。

国際看護プログラム修了に必要な科目

学年	学期	必ず履修する9科目	以下の指定科目から選択1科目以上
1年次	前期	English GatewayⅠ English Self-ExpressionⅠ	国際関係論 中国語Ⅰ 韓国語Ⅰ スペイン語Ⅰ
	後期	English GatewayⅡ English Self-ExpressionⅡ	
2年次	前期	English for Academic Purposes English Expedition	
	後期	看護英語	Academic Writing Academic Reading University English
3年次	前期	実践看護英語演習	
4年次	前期	国際比較看護論	

※卒業研究のテーマとして取り組むことも推奨する。

＊実践看護英語演習履修候補者の選抜要件

- ・国際看護プログラムに必要な1～2年次の科目を全て履修している。
- ・原則としてTOEIC500点以上、またはそれに相当する英語力がある。
- ・保証人の同意(同意書の提出)がある。
- ・海外研修に伴う諸経費の負担が可能である。

履修にあたっては、次の事項に留意ください。

- ① 時間割上、同一時限で履修できる科目は、1科目です。
- ② 時間割上、選択科目と必修科目が重複する場合には、必修科目が優先となります。慎重に履修科目を選択してください。
- ③ 看護専門教育科目は、定められた開講年次(学年)で履修してください。
- ④ 看護学実習の実施時期は、次の通りです。長期休業期間であっても、実習が優先されます。
 - ・基礎看護学実習(第1段階:1年次2月～3月中旬、第2段階:2年次8月～9月)
 - ・領域別看護学実習(3年次8月～3月中旬)
 - ・総合実習(4年次5月下旬～6月上旬)
 - ・公衆衛生看護学実習(4年次8月～9月)
 - ・養護実習(4年次8月～9月)

① 看護学実習の履修にあたっては、以下の履修条件を満たす必要があります。

授業科目	配当年次	履修条件
基礎看護学実習	1後～2前	1年後期に実施する第1段階の履修にあたっては、看護学原論を修得していること
		2年前期に実施する第2段階に進むためには、基礎看護学実習の第1段階を終え、看護技術論、看護技術各論Ⅰ、看護技術各論演習Ⅰを修得していること
母性看護学実習	3後	母性看護援助論Ⅱを修得していること
小児看護学実習	3後	小児看護援助論Ⅱを修得していること
成人看護学実習Ⅰ	3後	成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅲを修得していること
成人看護学実習Ⅱ	3後	成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅲを修得していること
老年看護学実習Ⅰ	3後	老年看護援助論Ⅱを修得していること
老年看護学実習Ⅱ	3後	老年看護援助論Ⅱを修得していること
精神看護学実習	3後	精神看護援助論Ⅱを修得していること
在宅看護学実習	3後	在宅看護援助論Ⅱを修得していること
地域看護学実習	3後	地域看護援助論を修得していること
看護マネジメント実習	3後	看護マネジメントⅠを修得していること

11 一履修モデル

凡例 ●:必修 ○○:選択科目 ★:資格取得に関連する科目 ※:フレッシュマンコア科目

科目 区分		授業科目	配当 年次	単 位 数	授 業 形 態	教育課程			プログラム		卒業要件		
						看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭	国 際 看 護	災 害 看 護	区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考
基盤教育科目	導 入 科目	スタートアップセミナーⅠ ※	1前	2	講義	●	●	●			----- <		

凡例 ●:必修 ○○:選択科目 ★:資格取得に関連する科目 ※:フレッシュマンコア科目

科目 区分	授業科目	配当 年次	単 位 数	授 業 形 態	教育課程			プログラム		卒業要件		
					看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭	国 際 看 護	災 害 看 護	区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考
専門基礎科目	人間発達学	1前	2	講義	●	●	●			必修科目を含めて 25単位以上修得		
	臨床心理学	1後	2	講義	●	●	★					
	保健行動科学	2前	2	講義								
	医療倫理学	1前	2	講義	●	●	●					
	人間関係論	1後	2	講義	●	●	●					
	形態機能学Ⅰ	1前	1	講義	●	●	★					
	形態機能学Ⅱ	1前	1	講義	●	●	★					
	形態機能学Ⅲ	1後	1	講義	●	●	★					
	薬理学	1後	2	講義	●	●	★					
	栄養学	2後	2	講義	●	●	★					
	社会福祉学	2前	2	講義								
	公衆衛生学	1後	2	講義	●	★	★					
	疫学Ⅰ	2後	2	講義	●	★	★					
	疫学Ⅱ	4後	2	講義		★						
	保健医療福祉行政論	3前	2	講義		★						
	学校保健論	2前	2	講義			★					
	病態学	2前	2	講義	●	●	★					
	疾病論Ⅰ	2前	1	講義	●	●	★					
	疾病論Ⅱ	2前	1	講義	●	●	★					
	疾病論Ⅲ	2後	1	講義	●	●	●					
	統合医療	4前	2	講義								
	看護情報学Ⅰ	2前	1	演習	●	●	●					
	看護情報学Ⅱ	2後	1	講義								
	応用看護情報学	4前	1	講義								
専門教育科目	看護学原論	1前	2	講義	●	●	★			必修科目を含めて 78単位以上修得		
	看護実践論	2後	1	講義	●	●	★					
	ライフステージ看護学概論Ⅰ	1後	2	講義	●	●	★					
	ライフステージ看護学概論Ⅱ	2前	2	講義	●	●	★					
	地域看護学概論	2前	2	講義	●	●	★					
	リハビリテーション看護論	3前	2	講義								
	看護学研究法	4前	2	講義	●	●	●					
	国際比較看護論	4前	2	講義				○				
	家族看護論	2後	2	講義	●	●	★					
	災害活動論	1後	2	講義					○			
	救急・災害看護論	4前	2	講義			★		○			
	災害看護支援論	4後	2	講義					○			
	看護英語	2後	1	講義				○				
	実践看護英語演習	3前	1	演習				○				
	看護技術論	1後	2	講義	●	●	★					
	看護技術各論Ⅰ	1後	1	講義	●	●	●					
	看護技術各論Ⅱ	2前	1	講義	●	●	●					
	看護技術各論Ⅲ	2前	1	講義	●	●	★					
	看護技術各論演習Ⅰ	1後	1	演習	●	●	●					
	看護技術各論演習Ⅱ	2前	1	演習	●	●	●					
	看護技術各論演習Ⅲ	2前	1	演習	●	●	●					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	●					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	★					
	小児看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	★					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2	講義	●	●	●					
	成人看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
	成人看護援助論Ⅲ	3前	2	講義	●	●	●					
	老年看護援助論Ⅰ	2前	2	講義	●	●	●					
	老年看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	★					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
	地域看護援助論	3前	2	講義	●	●	●					
	看護マネジメントⅠ	3前	2	講義	●	●	●		●			
	看護マネジメントⅡ	4前	2	講義	●	●	●					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	●					
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
	緩和ケア論	4前	1	講義								
	クリティカルケア論	4前	1	講義								
	卒業研究Ⅰ	4前	1	演習	●	●	●					
	卒業研究Ⅱ	4後	1	演習	●	●	●					
	基礎看護学実習	1後～2前	3	実習	●	●	★					別に定める履修条件を満たしていること
	母性看護学実習	3後	2	実習	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	小児看護学実習	3後	2	実習	●	●	★					別に定める履修条件を満たしていること
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2	実習	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	成人看護学実習Ⅱ	3後	2	実習	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	老年看護学実習Ⅰ	3後	1	実習	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2	実習	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	精神看護学実習	3後	2	実習	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること
	地域看護学実習	3後	1	実習	●	●	●					別に定める履修条件を満たしていること

凡例 ●:必修 ○○:選択科目 ★:資格取得に関連する科目 ※:フレッシュマンコア科目

科目区分		授業科目	配当年次	単位数	授業形態	教育課程			プログラム		卒業要件		
						看護師	保健師	養護教諭	国際看護	災害看護	区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考
専門教育科目	専門科目	在宅看護学実習	3後	2	実習	●	●	●			(前ページ続き) 必修科目を含めて 78単位以上修得		別に定める履修条件を満たしていること 別に定める履修条件を満たしていること 3年次に履修の可否を選抜する 3年次に履修の可否を選抜する 3年次に履修の可否を選抜する
		看護マネジメント実習	3後	2	実習	●	●	●					
		総合実習	4前	2	実習	●	●	●					
		公衆衛生看護学原論	2後	2	講義		★						
		公衆衛生看護援助論Ⅰ	3前	2	講義		★						
		公衆衛生看護援助論Ⅱ	3前	2	講義		★						
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	4前	2	講義		★						
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	4前	2	講義		★						
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	4前	2	講義		★						
		公衆衛生看護マネジメントⅠ	4前	2	講義		★						
		公衆衛生看護マネジメントⅡ	4後	2	講義		★						
		公衆衛生看護マネジメント演習	4後	1	演習		★						
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前	1	実習		★						
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4後	3	実習		★						
		公衆衛生看護学実習Ⅲ	4後	1	実習		★						
養護教諭一種免許状に係る科目	養護に関する科目	養護概説	2後	2	講義			★			卒業要件単位に 含まない		
		健康相談活動	3前	2	講義			★					
	教職に関する科目	教職論	3前	2	講義			★					
		教育学概論	2前	2	講義			★					
		教育心理学	2前	2	講義			★					
		教育課程論	2後	2	講義			★					
		教育の方法	4前	2	講義			★					
		教育相談の基礎と方法	2後	2	講義			★					
		特別支援教育	4前	1	講義			★					
		道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	3前	2	講義			★					
		養護実習	4後	5	実習			★					
		教職実践演習(養護教諭)	4後	2	演習			★					

1	看護学群について	
2	看護学類の科目配当	
3	卒業に必要な単位数及び卒業要件	
4	教育過程の特色	
5	看護師教育課程	
6	保健師教育課程	
7	養護教諭教育課程	
8	災害看護プログラム	
9	国際看護プログラム	
10	履修での留意事項	
11	履修モデル	

1 看護学群 看護学類 について	
2 看護学類の科目配当	
3 卒業に必要な単位数 及び卒業要件	
4 教育過程の特色	
5 看護師教育課程	
6 保健師教育課程	
7 養護教諭教育課程	
8 災害看護プログラム	
9 国際看護プログラム	
10 履修での留意事項	
11 履修モデル	

1	看護学群について
2	看護学類の科目配当
3	卒業に必要な単位数及び卒業要件
4	教育過程の特色
5	看護師教育課程
6	保健師教育課程
7	養護教諭教育課程
8	災害看護プログラム
9	国際看護プログラム
10	履修での留意事項
11	履修モデル

**MIYAGI UNIVERSITY
CURRICULUM GUIDE 2022**

School of Nursing

Department of Nursing

